

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について

令和7年度全国学力・学習状況調査における広島県の結果を公表します。

1 調査実施期日及び調査実施校数（県内公立学校）等

調査実施期日：令和7年4月17日（木）

学 年	調査実施校数	集計対象者数
小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、特別支援学校小学部第6学年	440 校	22,134 人
中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、中等教育学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年	234 校	20,134 人

2 調査実施教科の平均正答率（県内公立学校）

		小 学 校			中 学 校	
		国 語	算 数	理 科	国 語	数 学
平均 正答率 (%)	広島県 (公立)	69	59	59	55	47
	全 国 (公立)	66.8	58.0	57.1	54.3	48.3

		中 学 校
		理 科
IRT スコア※	広島県 (公立)	495
	全 国 (公立)	503

※ 中学校理科の調査結果は、IRT（項目反応理論）と呼ばれる統計理論に基づいて、500 を基準にしたスコアで表されている。IRT は、生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、生徒の学力によるのかを区別して分析し、生徒の学力スコアを推定することができる。

- 小学校は、国語、算数及び理科において、平均正答率が全国を上回っている。
- 中学校は、国語において、平均正答率が全国を上回っている。数学において、平均正答率が全国を下回っている。理科において、IRT スコアが全国を下回っている。

3 今後の予定

- 令和7年7月31日（木）17：00 に、広島県教育委員会のHPで、広島県の調査結果を公表するとともに、調査結果を踏まえた授業展開例についての解説動画を提供予定。

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku/r07zenkokukekka.html>

- 令和7年9月に、各市町教育委員会の指導主事等及び各小中学校等の教員を対象に、「全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業改善に向けた研究協議会」をオンラインで実施予定。

令和 7 年度全国学力・学習状況調査 調査結果について

令和 7 年 7 月
広島県教育委員会

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象とする児童生徒

- ・ 小学校第 6 学年、義務教育学校前期課程第 6 学年、特別支援学校小学部第 6 学年
- ・ 中学校第 3 学年、義務教育学校後期課程第 3 学年、中等教育学校前期課程第 3 学年、特別支援学校中学部第 3 学年

3 調査事項

(1) 児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査

(ア) 小学校調査は、国語、算数及び理科とし、中学校調査は、国語、数学及び理科とする。国語、算数・数学及び小学校理科は、冊子を用いた筆記方式（以下「PBT」(= Paper Based Testing) という。) で実施する。中学校理科は、生徒が活用する ICT 端末等を用いた、文部科学省 CBT システム（以下「MEXCBT」という。）によるオンライン方式（以下「CBT」(= Computer Based Testing) という。) で実施する。

(イ) 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

(ウ) 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。

イ 質問調査

調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査（以下、児童を対象とする場合は「児童質問調査」、生徒を対象とする場合は「生徒質問調査」、児童及び生徒を対象とする場合は「児童生徒質問調査」という。）を、児童生徒の活用する ICT 端末等を用いた CBT（生徒質問調査にあつては、MEXCBT による CBT）で実施する。

(2) 学校質問調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問調査（以下「学校質問調査」という。）をオンラインによる回答方式で実施する。

4 調査結果の活用及び配慮事項

本調査は、実施教科が小学校調査では国語、算数及び理科の3教科、中学校調査では国語、数学及び理科の3教科であることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものではないことなどから、本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の全てを表すものではないことに留意することが必要である。

本調査の結果においては、小学校調査では国語、算数及び理科、中学校調査では国語及び数学の平均正答数、平均正答率等の数値（中学校調査の理科では、IRT スコアを含む）を示しているが、平均正答数、平均正答率、IRT スコアは必ずしも調査結果の全てを表すものではないため、他の情報と合わせて総合的に結果を分析、評価することが重要である。また、個々の設問や領域等に注目して学習指導上の課題を把握、分析し、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることも重要である。

なお、問題別の市町別公表においては、調査結果を踏まえ、それぞれの役割と責任に応じて、学校における取組等に対して必要な支援等を行うなど、域内の教育及び教育施策の改善に向けた取組を進める際の参考にすることが必要である。

※ 平均正答率

- ・ 国語、算数・数学及び理科の平均正答率は、それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率（概数）
- ・ 学習指導要領の領域等、評価の観点、問題形式、設問ごとの平均正答率は、それぞれの正答児童生徒数を全体の児童生徒数で割った値の百分率

※ IRT スコア

- ・ 児童生徒の正答・誤答が、問題の特性によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する IRT（項目反応理論）と呼ばれる統計理論に基づき、500 を基準として算出された数値

5 教科の調査結果について

○ 問題ごとの正答率等を基にして、各教科の調査結果を次のようにまとめている。

- ・ 小学校国語
- ・ 小学校算数
- ・ 小学校理科
- ・ 中学校国語
- ・ 中学校数学
- ・ 中学校理科

○ 問題別調査結果

- ・ 問題別市町別平均正答率等一覧

<留意点>

問題別の正答率について

- ・ 問題相互に比較を行う場合には、問題ごとの難易度に差があることに留意する。
- ・ 集計対象児童生徒数が異なるため、県全体の平均や他の市町等と比較する場合、慎重に分析する。

広島県

令和 7 年度全国学力・学習状況調査結果の概要

調査実施期日

令和7年4月17日（木）

調査実施校数（県内公立学校）等

	調査実施校数	集計対象者数
小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、 特別支援学校小学部第6学年	440校	22,134人
中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、 中等教育学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年	234校	20,134人

教科に関する調査の結果

- 小学校は、国語、算数及び理科において、平均正答率が全国を上回っている。
- 中学校は、国語において、平均正答率が全国を上回っている。数学において、平均正答率が全国を下回っている。理科において、IRT スコアが全国を下回っている。

		小 学 校			中 学 校	
		国 語	算 数	理 科	国 語	数 学
平均正答率 (%)	広島県 (公立)	69	59	59	55	47
	全 国 (公立)	66.8	58.0	57.1	54.3	48.3

		中 学 校
		理 科
IRT スコア	広島県 (公立)	495
	全 国 (公立)	503

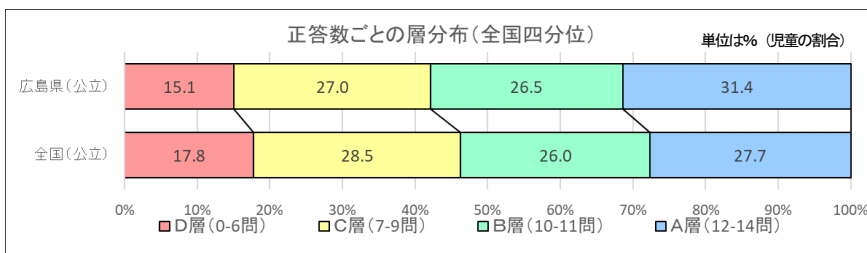
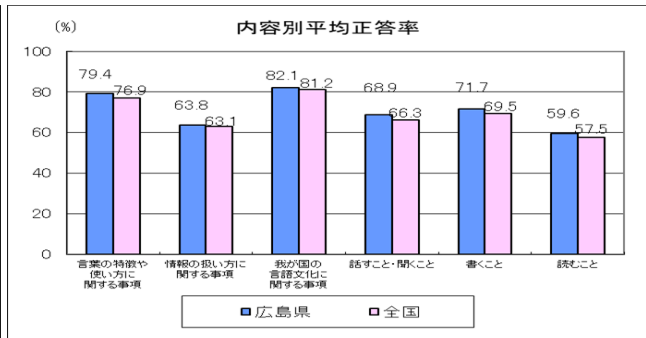
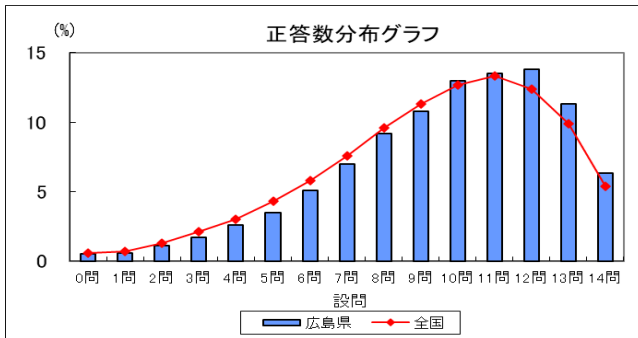
- IRT とは、項目反応理論 (Item Response Theory) と呼ばれる統計理論のことで、生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、生徒の学力によるのかを区別して分析し、生徒の学力スコアを推定することができる。
- IRT では、これまでのように、同一の問題セットを生徒が一斉に解答し、その正答数によって正答率を算出する調査とは異なり、複数の問題セットが用意され、個々の生徒が異なる問題セットを解答しても、生徒の学力スコアを推定することができる。
- 各学校や自治体に提供される IRT スコアは、500 を基準にしたスコアで示されている。IRT を導入する年の IRT スコアを基準値として、経年比較が可能となる。

教科に関する問題の調査結果

1 小学校 国語

- 国語については、平均正答率が69%で、全ての内容において平均正答率は全国平均より高い。
- 正答数分布グラフは、右寄りの山形になっており、中央値は10問（全国10問）、最頻値は12問（全国11問）となっている。
- D層（正答数0～6問）の児童の割合は、全国に比べて2.7ポイント低い。

国語



※正答数ごとの層分布(全国四分位)
全国の児童を正答数の大きい順に整理し、人数割合により25%刻みでA～Dの4つの層に分け、その層別の状況を示したものの。

正答率上位2問

- 【ちらし】の下線部アを、漢字を使って書き直す(好み(このみ))
(設問 2四ア) 84.6% (全国 81.6%)
- 山田さんが手ぬぐいの模様について言葉と図で説明した理由として適切なものを選択する
(設問 2二) 83.3% (全国 81.8%)

正答率下位2問

- 【話し合いの様子】の田中さんの発言の空欄Aに当てはまる内容として適切なものを選択する
(設問 3三(1)) 41.3% (全国 40.8%)
- 【資料3】を読み、【木村さんのメモ】の空欄イに当てはまる内容として適切なものを選択する
(設問 3二(2)) 52.6% (全国 51.3%)

全国平均正答率を上回った上位2問

- 【資料1】を読み返して言葉の変化について自分が納得したことを、【資料2】、【資料3】、【資料4】に書かれていることを理由にしてまとめて書く
(設問 3三(2)) 61.9% (全国 56.3%、全国比 +5.6 pt)
- 【インタビューの様子の一部】で小森さんが傍線部アのように発言した目的として適切なものを選択する
(設問 1三(1)) 75.0% (全国 71.8%、全国比 +3.2 pt) ※同ポイント
- 【ちらし】の二重傍線部を、【調べたこと】を基に詳しく書く
(設問 2三) 64.5% (全国 61.3%、全国比 +3.2 pt) ※同ポイント

全国平均正答率を下回った下位2問

- 該当なし

今年度、各教科の分析に、新たに次のような項目を増やしました。

○正答数ごとの層分布(全国四分位)

学習につまずきが見られるD層の児童生徒の割合に着目し、児童生徒一人一人に対する支援や手立てを考えることにつなげていくため。

○全国平均正答率を上回った上位(下回った下位)2問

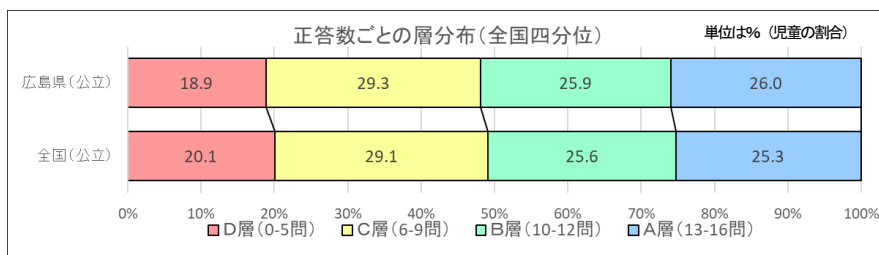
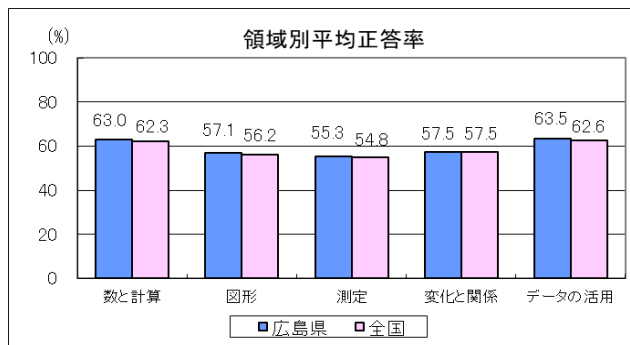
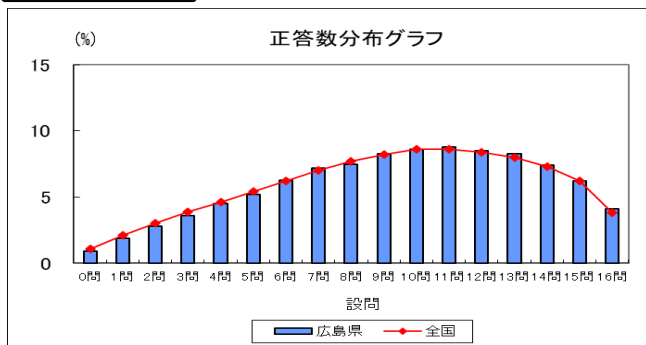
全国平均正答率と比べることで、各教科における広島県の傾向を把握し、授業改善等の取組につなげていくため。



2 小学校 算数

- 算数については、平均正答率が59%で、領域別では「変化と関係」の平均正答率が全国平均と同程度で、その他は全国平均より高い。
- 正答数分布グラフは、なだらかな右寄りの山形になっており、中央値は10問（全国10問）、最頻値は11問（全国10問、11問）となっている。
- D層（正答数0～5問）の児童の割合は、全国に比べて1.2ポイント低い。

算数



※正答数ごとの層分布 (全国四分位)
全国の児童を正答数の大きい順に整理し、人数割合により25%刻みでA～Dの4つの層に分け、その層別の状況を示したものの。

正答率上位2問

- $1/2 + 1/3$ を計算する
(設問 ③ (4)) 84.5% (全国 81.3%)
- 新品のハンドソープが空になるまでに何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を選ぶ
(設問 ④ (1)) 82.7% (全国 82.8%)

正答率下位2問

- $3/4 + 2/3$ について、共通する単位分数と、 $3/4$ と $2/3$ が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く
(設問 ③ (2)) 23.9% (全国 23.0%)
- 都道府県Aのブロッコリーの出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、そのわけを書く
(設問 ① (2)) 33.3% (全国 31.0%)

全国平均正答率を上回った上位2問

- $1/2 + 1/3$ を計算する
(設問 ③ (4)) 84.5% (全国 81.3%、全国比 +3.2pt)
- 都道府県Aのブロッコリーの出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、そのわけを書く
(設問 ① (2)) 33.3% (全国 31.0%、全国比 +2.3pt)

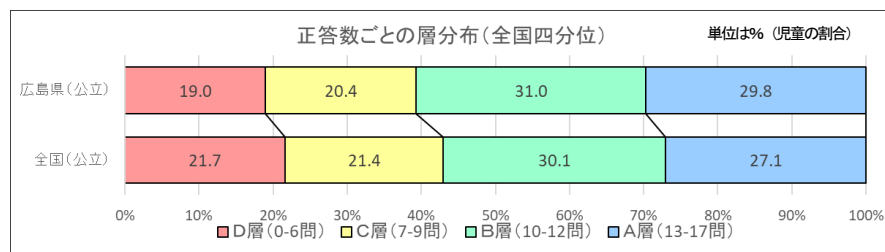
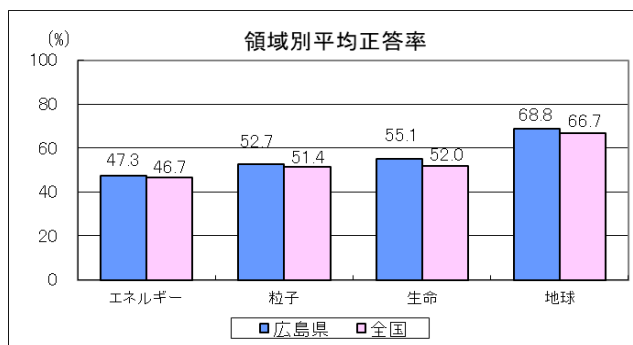
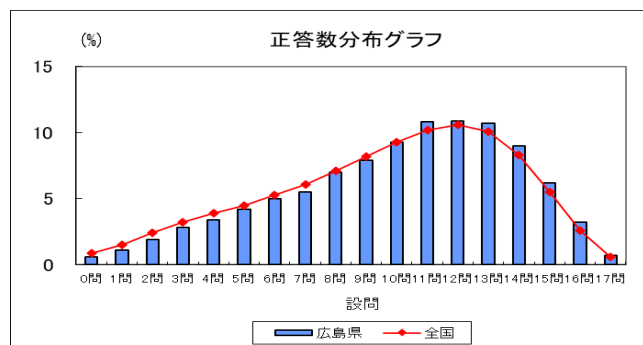
全国平均正答率を下回った下位2問

- 10%増量したためかえ用のハンドソープの容量が、増量前の何倍かを選ぶ
(設問 ④ (4)) 39.7% (全国 40.9%、全国比 -1.2pt)
- 方眼上の五つの図形の中から、台形を選ぶ
(設問 ② (2)) 49.5% (全国 50.2%、全国比 -0.7pt)

3 小学校 理科

- 理科については、平均正答率が59%で、全ての領域において平均正答率は全国平均より高い。
- 正答数分布グラフは、右寄りの山形になっており、中央値は11問（全国10問）、最頻値は12問（全国12問）となっている。
- D層（正答数0～6問）の児童の割合は、全国に比べて2.7ポイント低い。

理 科



※正答数ごとの層分布 (全国四分位)
全国の児童を正答数の大きい順に整理し、人数割合により25%刻みでA～Dの4つの層に分け、その層別の状況を示したものの。

正答率上位2問

- 赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込む時間の違いを調べる実験の条件について、コップAの土の量と水の量から、コップBの条件を書く (設問 ① (1)) 82.1% (全国 79.5%)
- 【結果】や【問題に対するまとめ】から、中くらいの粒の赤玉土に水がしみ込む時間を予想し、予想した理由とともに選ぶ (設問 ① (3)) 79.6% (全国 77.8%)

正答率下位2問

- アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ (設問 ② (1)) 10.2% (全国 10.6%)
- レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気付きを基に、見いだした問題について書く (設問 ③ (4)) 36.9% (全国 29.9%)

全国平均正答率を上回った上位2問

- レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気付きを基に、見いだした問題について書く (設問 ③ (4)) 36.9% (全国 29.9%、全国比 +7.0pt)
- 赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いをまとめたわけについて、結果を用いて書く (設問 ① (2)) 66.1% (全国 60.5%、全国比 +5.6pt)

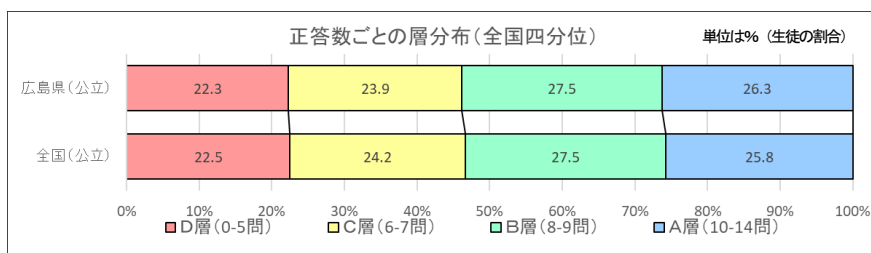
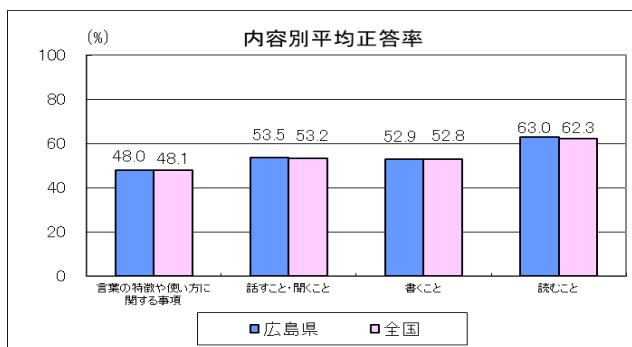
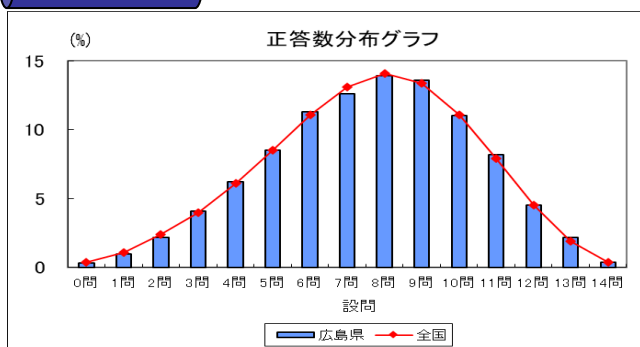
全国平均正答率を下回った下位2問

- アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ (設問 ② (1)) 10.2% (全国 10.6%、全国比 -0.4pt)
- ベルをたたく装置の電磁石について、電流がつくる磁力を強めるため、コイルの巻数の変え方を書く (設問 ② (3)) 77.7% (全国 78.0%、全国比 -0.3pt)

4 中学校 国語

- 国語については、平均正答率が 55%で、内容別では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の平均正答率は全国平均より低く、他の内容は全国平均より高い。
- 正答数分布グラフは、やや右寄りの山形になっており、中央値は8問（全国8問）、最頻値は8問（全国8問）となっている。
- D層（正答数0～5問）の生徒の割合は、全国に比べて0.2ポイント低い。

国語



※正答数ごとの層分布(全国四分位)
全国の児童を正答数の大きい順に整理し、人数割合により25%刻みでA～Dの4つの層に分け、その層別の状況を示したものの。

正答率上位2問

- 「兄」と「弟」が、物語の中でどのような性格の人物として描かれているかを書く (設問 3二) 90.6% (全国 89.9%)
- ちらしに「会場図」を加えた目的を説明したものとして適切なものを選択する (設問 1二) 82.8% (全国 82.5%)

正答率下位2問

- 「一 榎木の実」に書かれている場面が、「二 釣の話」には書かれていないことによる効果について、自分の考えとそう考えた理由を書く (設問 3四) 18.6% (全国 17.1%)
- 発表のまとめの内容をより分かりやすく伝えるためのスライドの工夫について、どのような助言をするか、自分の考えを書く (設問 2四) 25.2% (全国 23.2%)

全国平均正答率を上回った上位2問

- ちらしの読み手に向けて、今年の美術展の工夫について伝える文章を書く (設問 1四) 33.5% (全国 31.0%、全国比 +2.5pt)
- 発表のまとめの内容をより分かりやすく伝えるためのスライドの工夫について、どのような助言をするか、自分の考えを書く (設問 2四) 25.2% (全国 23.2%、全国比 +2.0pt)

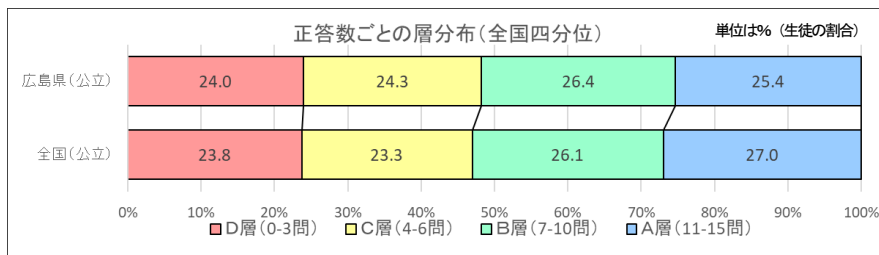
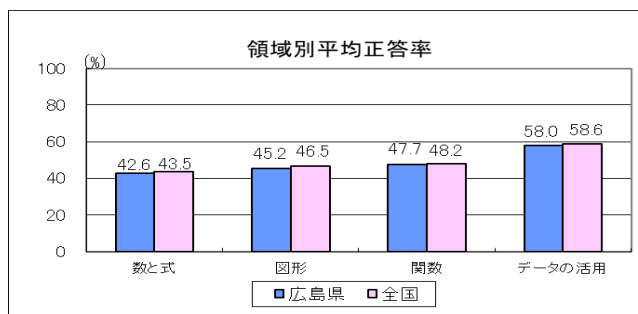
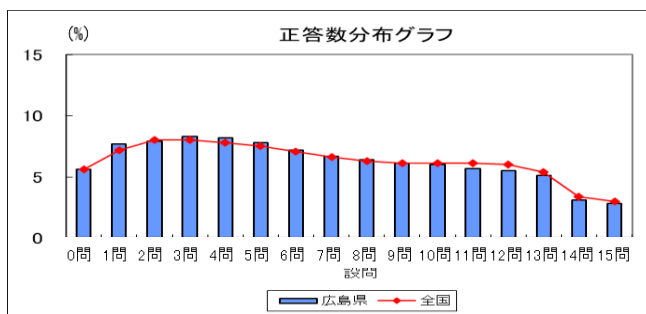
全国平均正答率を下回った下位2問

- 手紙の下書きを見直し、誤って書かれている漢字を見付けて修正する (設問 4一) 54.0% (全国 57.3%、全国比 -3.3pt)
- 変換した漢字として適切なものを選択する (会心(かいしん)) (設問 1一) 33.9% (全国 35.2%、全国比 -1.3pt)

5 中学校 数学

- 数学については、平均正答率が47%で、全ての領域において平均正答率は全国平均より低い。
- 正答数分布グラフは、なだらかで左に寄っており、中央値は7問（全国7問）、最頻値は4問（全国3問、4問）となっている。
- D層（正答数0～3問）の生徒の割合は、全国に比べて0.2ポイント高い。

数 学



※正答数ごとの層分布 (全国四分位)
全国の児童を正答数の大きい順に整列し、人数割合により25%刻みでA～Dの4つの層に分け、その層別の状況を示したものの。

正答率上位2問

- Aの手元のカードが3枚とも「グー」、Bの手元のカードが3枚とも「チョキ」でじゃんけんカードゲームの1回目を行うとき、1回目にAが勝つ確率を書く
(設問 7 (1)) 76.7% (全国 77.4%)
- A駅からの走行距離と運賃の関係を表すグラフの何を読み取ればC駅とD駅の間の走行距離が分かるかを選ぶ
(設問 8 (1)) 71.9% (全国 71.9%)

正答率下位2問

- $3n$ と $3n+3$ の和を $2(3n+1)+1$ と表した式から、連続する二つの3の倍数の和がどんな数であるかを説明する
(設問 6 (2)) 23.8% (全国 25.7%)
- 一次関数 $y=6x+5$ について、 x の増加量が2のときの y の増加量を求める
(設問 4) 32.0% (全国 34.7%)

全国平均正答率を上回った上位2問

- 1から9までの数の中から素数を全て選ぶ
(設問 1) 33.7% (全国 31.8%、全国比 +1.9pt)
- A駅から60.0km地点につくられる新しい駅の運賃がおよそ何円になるかを求める方法を説明する
(設問 8 (2)) 39.2% (全国 38.0%、全国比 +1.2pt)

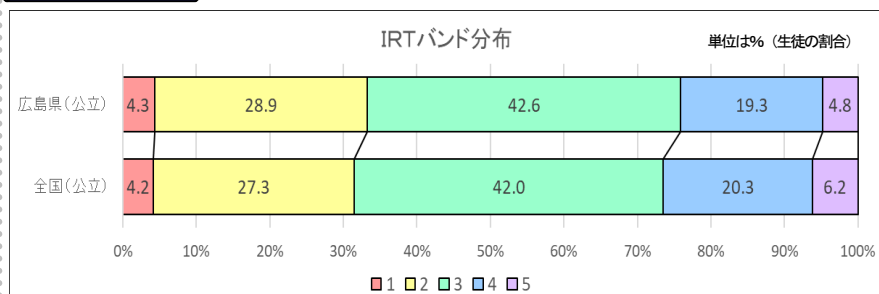
全国平均正答率を下回った下位2問

- $\triangle ABC$ において、 $\angle A$ の大きさが 50° のときの頂点Aにおける外角の大きさを求める
(設問 3) 55.3% (全国 58.1%、全国比 -2.8pt)
- 一次関数 $y=6x+5$ について、 x の増加量が2のときの y の増加量を求める
(設問 4) 32.0% (全国 34.7%、全国比 -2.7pt)

6 中学校 理科

- 理科については、IRT スコアが 495 で、IRT バンド1の生徒の割合は、全国に比べて 0.1 ポイント高く、IRT バンド2の生徒の割合は全国に比べて 1.6 ポイント高い。

理 科



※ IRT バンド

各生徒に対して出題された問題の正誤状況に基づき、総合的に推定されるもので、1～5の5段階に区切ったもの。3を基準とし、5が最もスコアが高い。

正答率上位2問

- 「Web ページの情報だけを信用して考察してよいか」について判断し、その理由として適切なものをすべて選択する
(設問2)(2) 94.8% (全国 94.6%)
- 加熱を伴う実験において、火傷をしたときの適切な応急処置を選択する
(設問5)(1) 92.3% (全国 93.0%)

正答率下位2問

- 【考察】をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する
(設問2)(1) 13.6% (全国 14.0%)
- Aさんの考えを肯定するためにはボーリング地点③の結果がどのようになればよいかを判断し、青色の地層を移動させ、ボーリング地点③の結果をモデルで示す
(設問8)(2) 17.4% (全国 18.1%)

全国平均正答率を上回った上位2問

- 水道水と精製水に関する2人の発表を見て、探究の過程におけるあなたの振り返りを記述する
(設問1)(6) 81.9% (全国 79.4%、全国比 +2.5pt)
- 生物1から生物4までの動画を見て、呼吸を行う生物をすべて選択する
(設問1)(4) 31.0% (全国 29.7%、全国比 +1.3pt)

全国平均正答率を下回った下位2問

- 小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造と同じ構造をもつものとして適切な事象を判断し、選択する
(設問7)(1) 29.4% (全国 34.8%、全国比 -5.4pt)
- クリーンルームのほかに気圧を利用している身近な事象を選択する
(設問9)(2) 53.4% (全国 58.1%、全国比 -4.7pt)

※ 上で取り上げた問題は、公開問題 22 問を対象としている。

令和7年度全国学力・学習状況調査中学校第3学年理科 https://www.nier.go.jp/25chousa/pdf/25mondai_chuu_rika.pdf

質問調査に関する調査結果

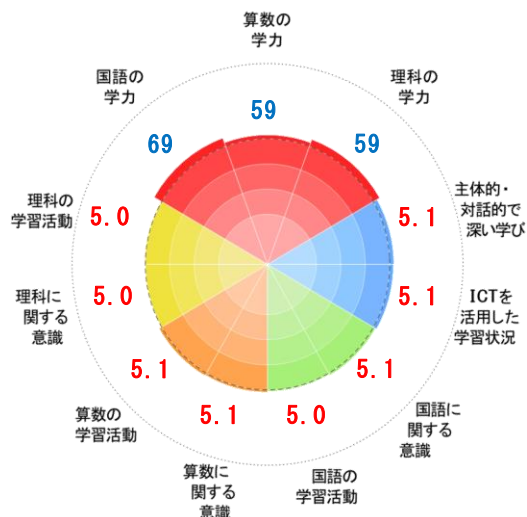
○ 全国学力・学習状況調査結果チャート

- 小学校は、質問調査において、全ての領域で全国と同程度又は全国を上回っている。
- 中学校は、質問調査において、「理科に関する意識」「学習習慣」で全国より低く、他の領域は全国と同程度又は全国を上回っている。

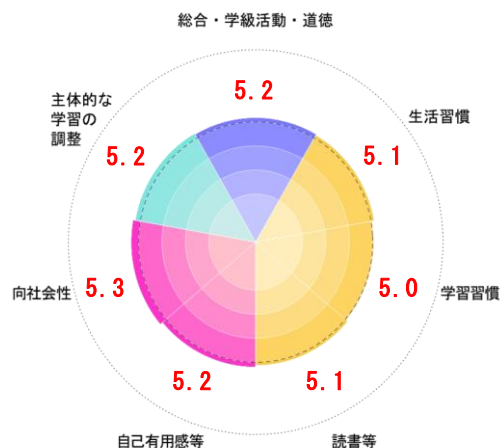
小学校

学校数 440 校 生徒数 22,134 人

教科を中心とした学力・学習状況



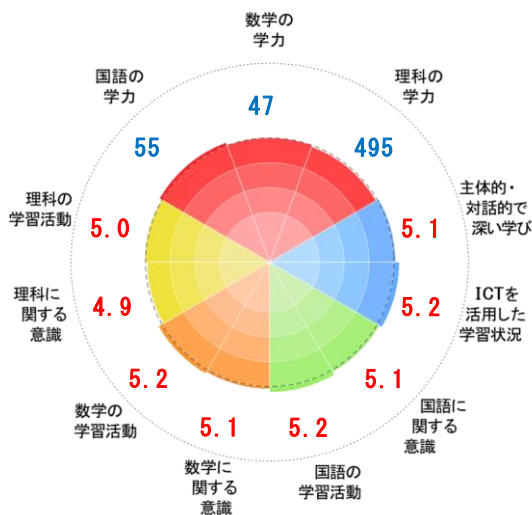
その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）



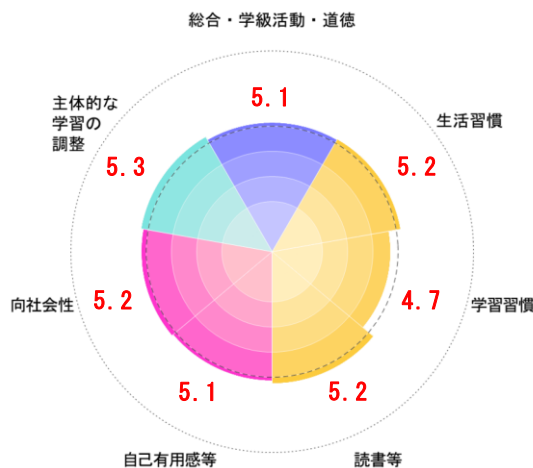
中学校

学校数 234 校 生徒数 20,134 人

教科を中心とした学力・学習状況



その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）



※結果チャートについて：児童生徒質問調査の下記の領域の回答状況を得点換算したもの（有効数字2桁）。全国平均が5.0となるように標準化されており、その値が大きいくほど、当該領域において肯定的な回答割合が高いことを意味している。チャート内の数値は、広島県の得点を示している。

領域名	児童生徒質問番号	領域名	児童生徒質問番号	領域名	児童生徒質問番号
国語の学力	平均正答率	国語の学習活動	(46) (48) ~ (51)	生活習慣	(1) ~ (3)
算数（数学）の学力	（中学校理科は IRT スコア）	算数（数学）に関する意識	(52) (53) (55) (56)	学習習慣	(17) (19)
理科の学力		算数（数学）の学習活動	(54) (57) ~ (59)	読書等	(21) ~ (24)
主体的・対話的で深い学び	(31) ~ (35) (37) (39)	理科に関する意識	児童 (60) (61) (63) ~ (65)	自己有用感等	(5) (6) (10) (12) (14) (15)
ICTを活用した学習状況	(28) (29)	理科の学習活動	児童 (62) (66) ~ (70)	向社会的性	(8) (9) (11) (27)
国語に関する意識	(44) (45) (47)	総合・学級活動・道徳	(40) ~ (43)	主体的な学習の調整	(16) (36)

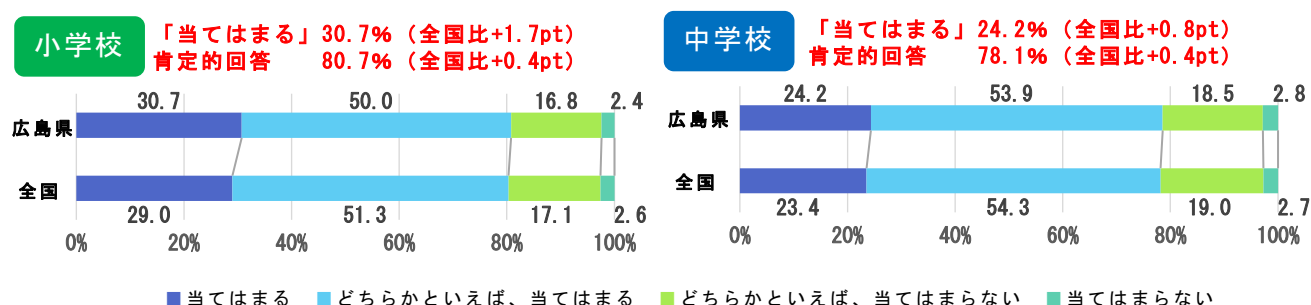
児童生徒質問の内容については、国立教育政策研究所 HP を参照。<https://www.nier.go.jp/25chousa/25chousa.htm>

○ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の状況

- 主体的・対話的で深い学びに取り組んだと考える児童生徒の割合は、全国平均より高い。
- 主体的・対話的で深い学びに取り組んだと考える児童生徒ほど、各教科の正答率が高い。
- 個別最適な学びになっていると感じていたり、協働的な学びに取り組んだと考えたりしている児童生徒ほど、各教科の正答率が高い。

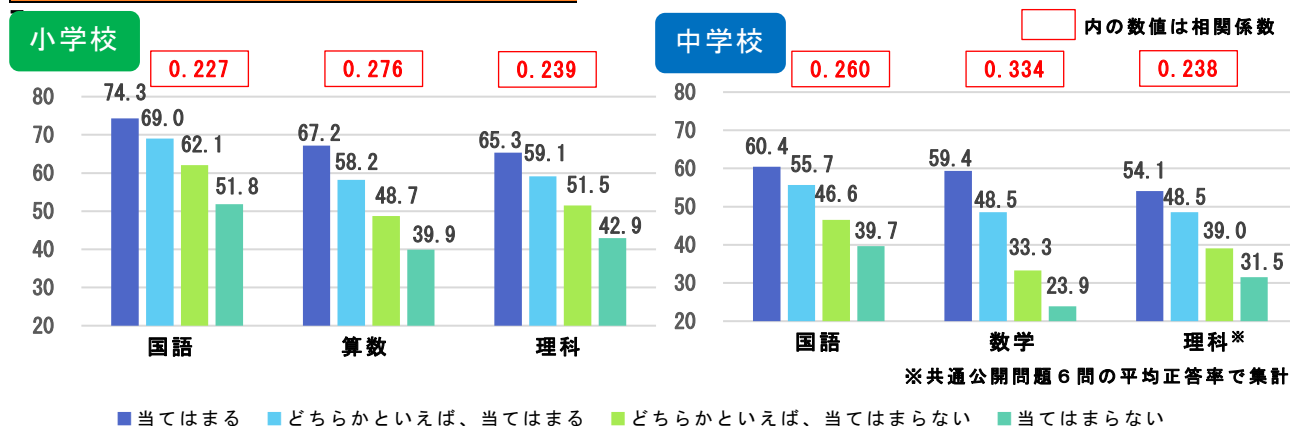
主体的・対話的で深い学び

児童生徒質問 5年生までに（1、2年生のときに）受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



各教科の正答率との関係（クロス集計）

選択肢ごとの教科の平均正答率

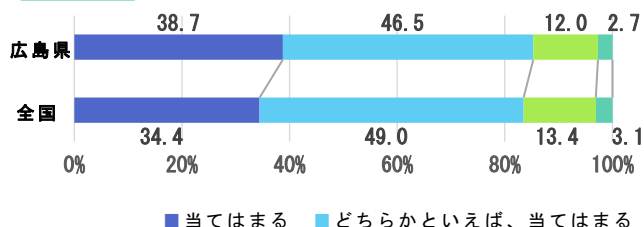


個別最適な学び

児童生徒質問 5年生までに（1、2年生のときに）受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか

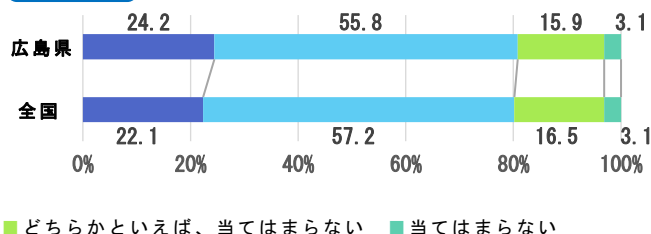
小学校

「当てはまる」 38.7%（全国比+4.3pt）
肯定的回答 85.2%（全国比+1.8pt）



中学校

「当てはまる」 24.2%（全国比+2.1pt）
肯定的回答 80.0%（全国比+0.7pt）



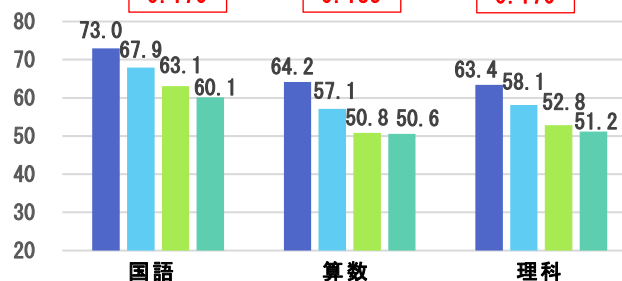
■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない

各教科の正答率との関係（クロス集計）

選択肢ごとの教科の平均正答率

小学校

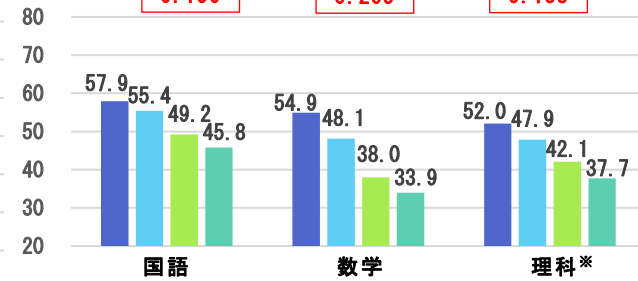
0.170 0.185 0.170



■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない

中学校

0.156 0.205 0.153



※共通公開問題6問の平均正答率で集計

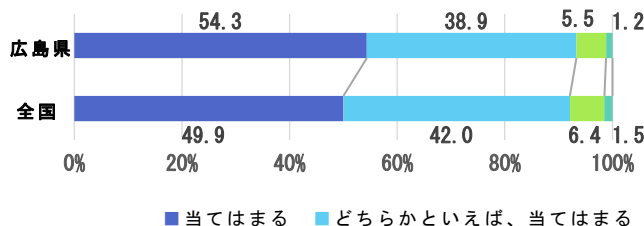
内の数値は相関係数

協働的な学び

児童生徒質問 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか

小学校

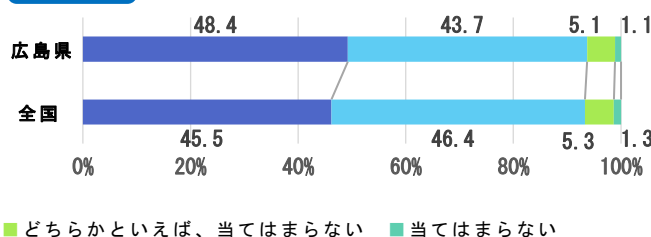
「当てはまる」 54.3%（全国比+4.4pt）
肯定的回答 93.2%（全国比+1.3pt）



■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない

中学校

「当てはまる」 48.4%（全国比+2.9pt）
肯定的回答 92.1%（全国比+0.2pt）

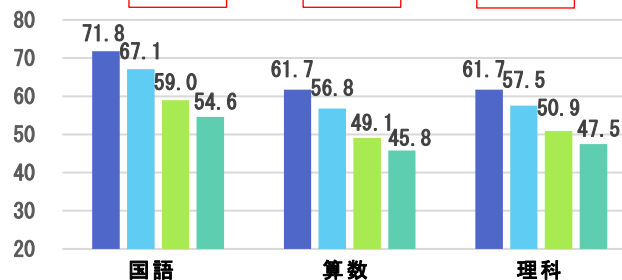


各教科の正答率との関係（クロス集計）

選択肢ごとの教科の平均正答率

小学校

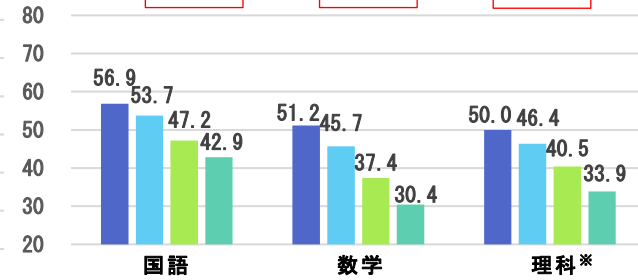
0.171 0.144 0.142



■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない

中学校

0.133 0.143 0.121



※共通公開問題6問の平均正答率で集計

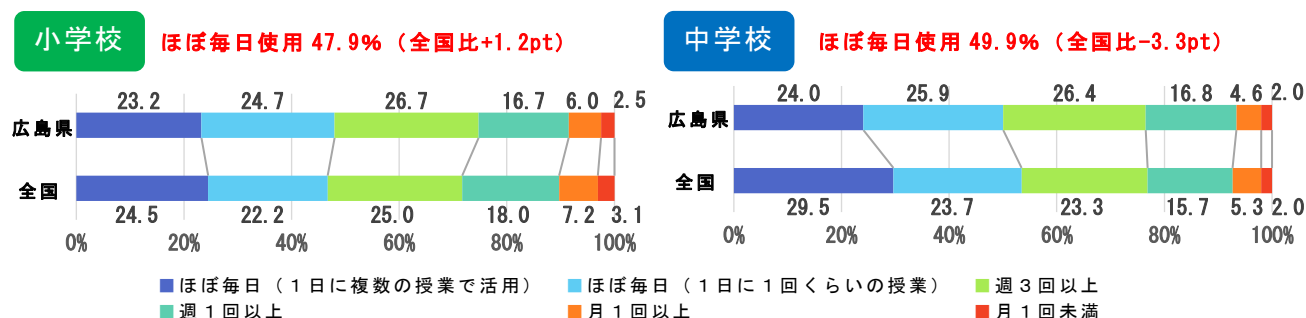
内の数値は相関係数

○ ICT を活用した学習状況

- 一人1台端末をほぼ毎日使用した児童生徒の割合は、全国平均より、小学校は高いが、中学校は低い。
- 一人1台端末をほぼ毎日（1日に複数の授業で活用）使用した児童生徒は、それ以外の児童生徒と比べ、各教科の正答率が高い。
- 児童生徒が発表・表現する場面や、やりとりする場面で一人1台端末を使用させている学校の割合は、全国平均より低い。

一人1台端末の使用頻度

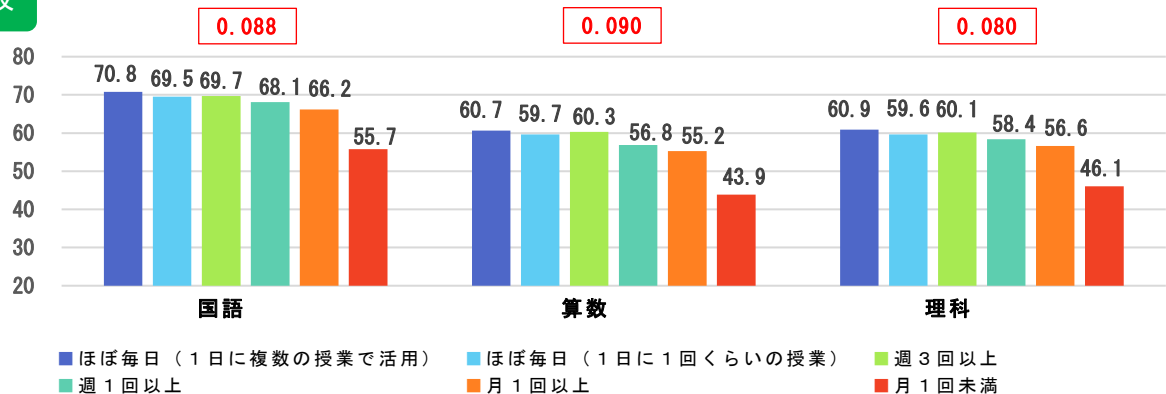
児童生徒質問 5年生までに（1、2年生のときに）受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



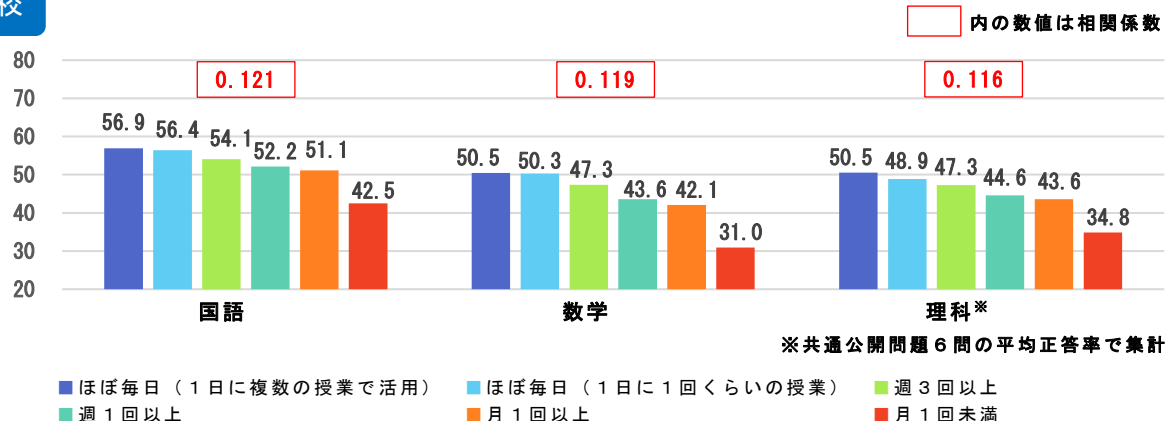
各教科の正答率との関係（クロス集計）

選択肢ごとの教科の平均正答率

小学校

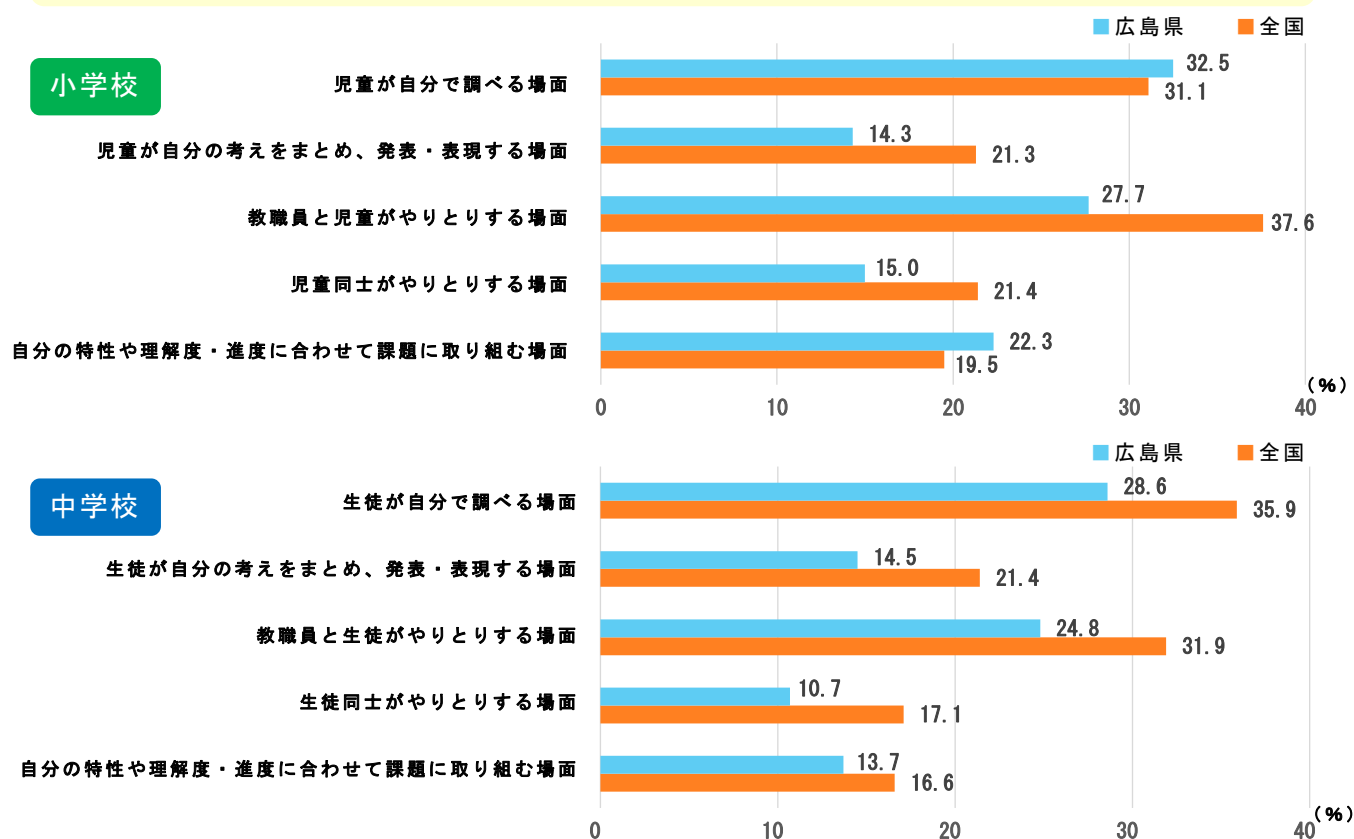


中学校



一人1台端末の指導状況

学校質問 次のような場面で児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。（「ほぼ毎日」と回答した学校の割合）

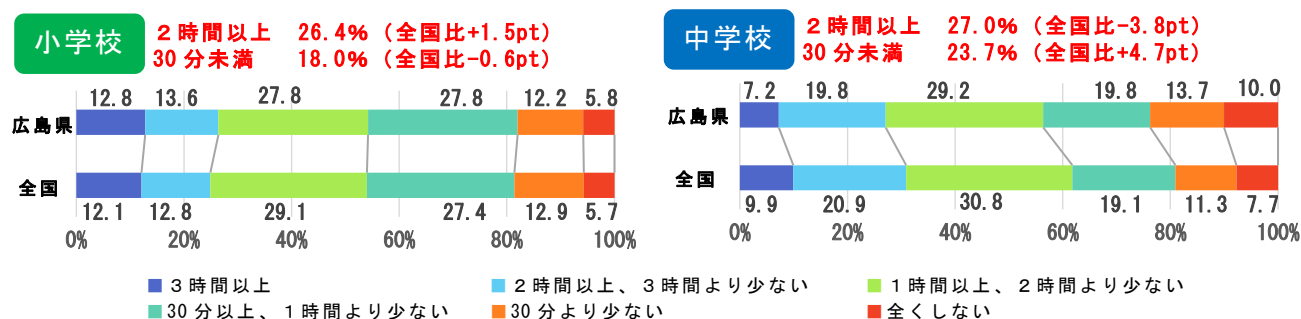


○ 学習習慣

- 授業を除く平日の勉強時間が2時間以上の児童生徒の割合は、全国平均より、小学校は高いが、中学校は低い。
- 休日の勉強時間が3時間以上の児童生徒の割合は、全国平均より、小学校は高いが、中学校は低い。
- 授業を除く平日や休日に全く勉強をしない児童生徒は、それ以外の児童生徒と比べ、各教科の正答率は低い。

平日の勉強時間（授業を除く）

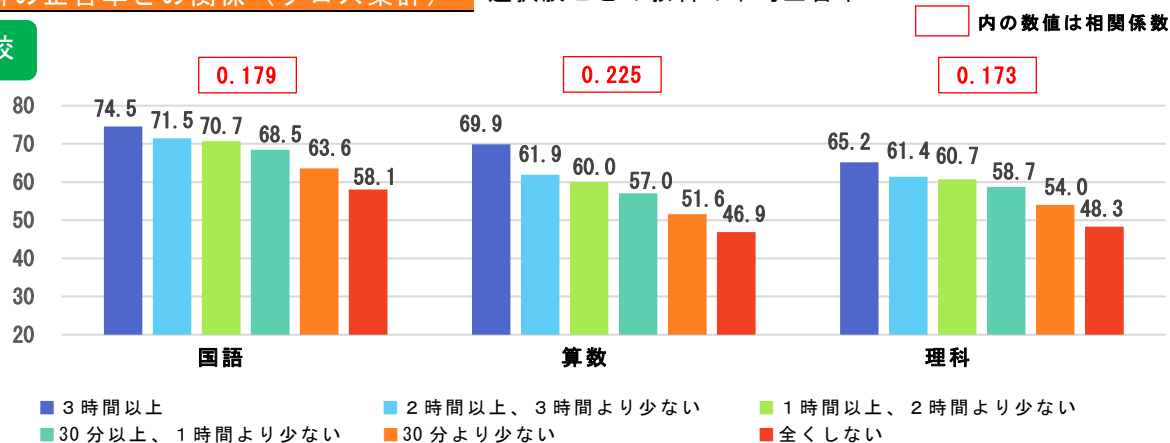
児童生徒質問 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



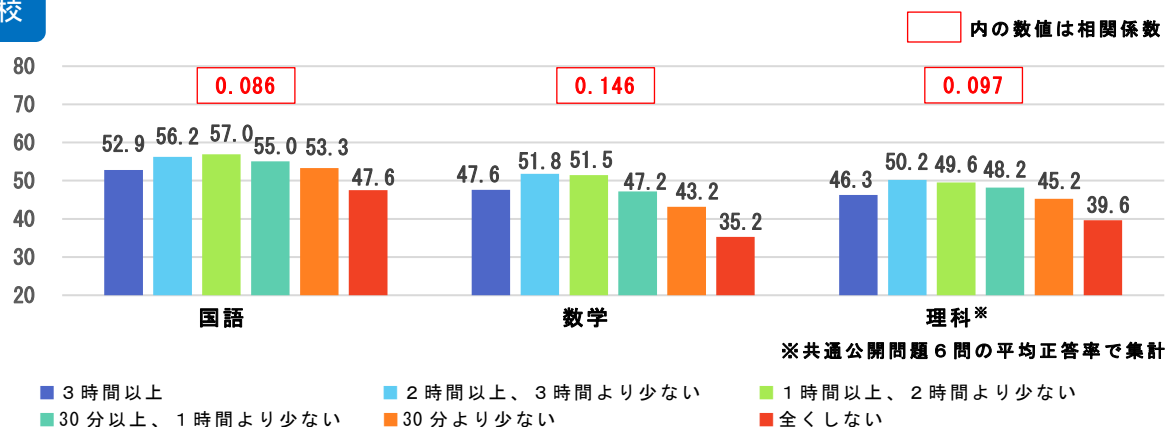
各教科の正答率との関係（クロス集計）

選択肢ごとの教科の平均正答率

小学校

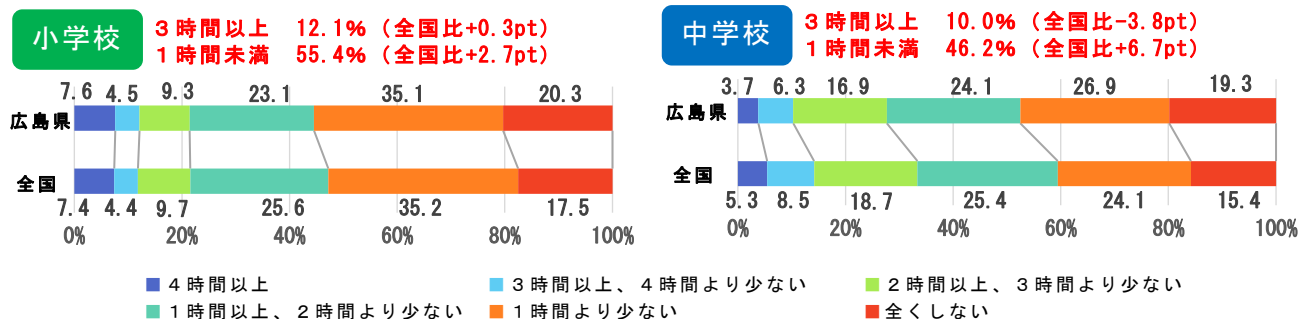


中学校



休日の勉強時間

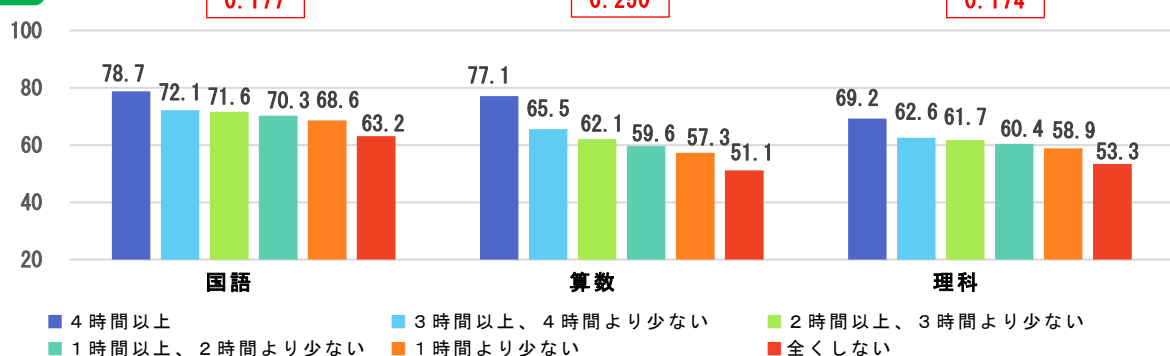
児童生徒質問 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



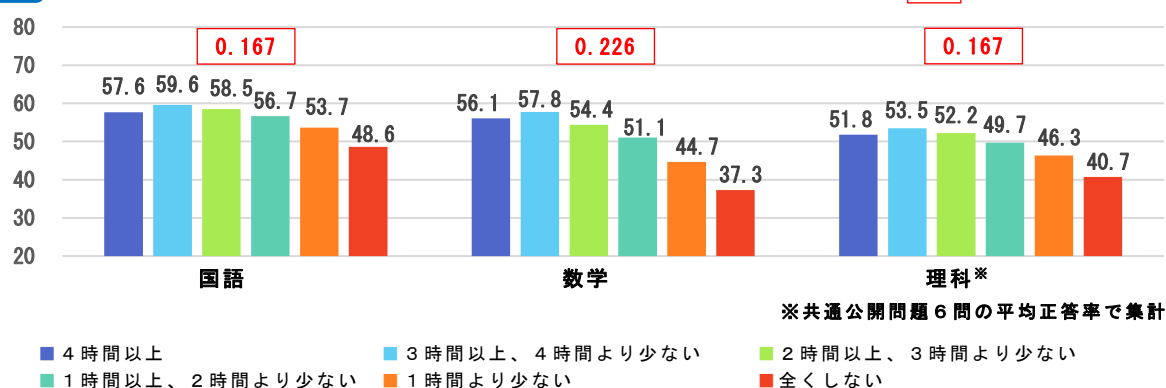
各教科の正答率との関係（クロス集計）

選択肢ごとの教科の平均正答率

小学校



中学校



特徴的な問題 中学校 数学

構想を立てて説明し、統合的・発展的に考察すること。

(6 連続する 3 の倍数の和)

- (2) 式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる問題

- ⑥ 結菜さんと太一さんは、3、6や12、15のような連続する2つの3の倍数の和がどんな数になるかを調べるために、次の計算をしました。

$$\begin{array}{ll} 3, 6 \text{ のとき} & 3 + 6 = 9 \\ 12, 15 \text{ のとき} & 12 + 15 = 27 \\ 30, 33 \text{ のとき} & 30 + 33 = 63 \end{array}$$

次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

- (1) 結菜さんは、これらの計算の結果から、「連続する2つの3の倍数の和は、いつでも9の倍数になる」と予想しました。

しかし、この予想は成り立ちません。この予想が成り立たないことを下のように説明します。下の①から③までに当てはまる整数をそれぞれ書き、説明1を完成しなさい。

説明1

連続する2つの3の倍数が、例えば、①、②のとき、① + ② を計算すると、和は③となり、9の倍数ではない。

したがって、「連続する2つの3の倍数の和は、いつでも9の倍数になる」という予想は成り立たない。

- (2) 連続する2つの3の倍数の和は、9の倍数になるとは限らないことに気づいた二人は、連続する2つの3の倍数の和がどんな数になるかを調べることにしました。

そこで、二人は、 n を整数として、連続する2つの3の倍数を $3n$ 、 $3n+3$ と表してそれらの和を計算し、それぞれ次のように式を変形しました。

結菜さんの式の変形

$$\begin{aligned} & 3n + (3n + 3) \\ &= 3n + 3n + 3 \\ &= 6n + 3 \\ &= 3(2n + 1) \end{aligned}$$

太一さんの式の変形

$$\begin{aligned} & 3n + (3n + 3) \\ &= 3n + 3n + 3 \\ &= 6n + 3 \\ &= 2(3n + 1) + 1 \end{aligned}$$

結菜さんの式の変形の $3(2n+1)$ から、「連続する2つの3の倍数の和は、3の倍数である」ことがわかります。

太一さんの式の変形の $2(3n+1)+1$ から、連続する2つの3の倍数の和は、どんな数であるといえますか。「は、……である。」という形で書きなさい。

平均正答率
広島県 23.8%
全 国 25.7%

【解答類型とその反応率】

1 段目：広島県（公立）の生徒数の割合（%）

2 段目：全 国（公立）の生徒数の割合（%）

問題番号	問題の概要	解答類型									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9 9	無解答
6 (2)	3nと3n+3の和を2(3n+1)+1と表した式から、連続する二つの3の倍数の和がどんな数であることを説明する	10.8	1.2	10.7	1.1	18.4	13.3			23.2	21.3
		12.3	1.4	10.9	1.1	18.3	11.5			21.7	24.9

(正答の条件)

「○○は、◇◇である。」という形で、次の(a)、(b)について記述しているもの。

(a) ○○が、「連続する2つの3の倍数の和」である。

(b) ◇◇が、「奇数」である。

1	◎	(a)、(b)について記述しているもの
2	○	(a)についての記述が十分でなく、(b)について記述しているもの。又は、(b)のみを記述しているもの
3	◎	(a)について記述し、(b)以外で2(3n+1)+1から読み取れる事柄を記述しているもの
4	○	上記3について、(a)についての記述が十分でないもの。又は、(a)についての記述がないもの
5		上記1～4以外で、2(3n+1)+1から読み取れないが、連続する二つの3の倍数の和について成り立つ事柄を記述しているもの (a)についての記述が十分でないものや、(a)についての記述がないものを含む)
6		成り立たない事柄を記述しているもの (a)についての記述が十分でないものや、(a)についての記述がないものを含む)
9 9		上記以外の解答
0		無解答

【指導改善のポイント】

⇒ 数に関する事象を考察する場面では、成り立ちそうな事柄を予想し、予想した事柄が成り立つかどうかを判断し、成り立つ理由や成り立たない理由を数学的に説明すること、さらに、問題の条件を変えるなどして、統合的・発展的に考察することが大切である。

このような問題ができるようになるためには、二つの3の倍数を $3n$ 、 $3n+3$ として和を計算した式である $6n+3$ がどのような式に変形できるかを考察する場面を設定することが考えられる。例えば、どのような数になるか予想し、3の倍数ならば $3 \times$ （整数）、奇数ならば $2 \times$ （整数）+1と変形すればよいと見通しをもった上で式を変形させ説明する活動を取り入れること、さらに、他者の考えから式の形は同じでも2の倍数+1や偶数+1といった表現の違いに着目させることなど、統合的・発展的に考察することを促す指導を行うことが大切である。

特徴的な問題 中学校 理科

【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明すること。

(1) 【考察】をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する問題

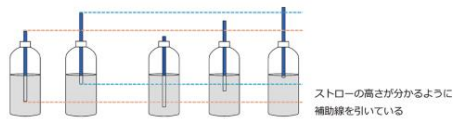
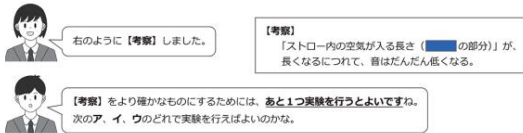
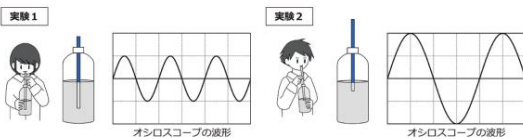
2

理科の授業で、ストローと水の入っているペットボトルで楽器をつくり、音について科学的に探究しています。

(1)、(2)の各問いに答えなさい。



【実験】「ストロー内の空気が入る長さ（ の部分）」を変えて実験を行ったときのオシロスコープの波形を観察しました。



(1) 正解について、【考察】をより確かなものにするために1つ実験を選択するとしたら、上のア、イ、ウのうち、あなたはどの実験を選びますが、1つ選びなさい。
上のア、イ、ウのどの実験を選んでみてもかまいません。
また、上で選んだ実験を行ったときに、オシロスコープの波形から何が分ればよいのか、振動数という言葉を使って書きなさい。

選んだ実験: 選択肢から選ぶ

分かれればよいこと

平均正答率
広島県 13.6%
全 国 14.0%

【主な正答例とその反応率】

〈アを選択した場合の正答例〉 広島県 3.3% 全国 3.4%

・実験 1、2 より振動数が多いことが分ければよい。

〈イを選択した場合の正答例〉 広島県 5.0% 全国 5.5%

・実験 1 より振動数が少なく、実験 2 より振動数が多いことが分ければよい。

〈ウを選択した場合の正答例〉 広島県 5.3% 全国 5.1%

・実験 1、2 より振動数が少ないことが分ければよい。

【主な誤答例とその反応率】

〈誤答例 1〉 広島県 19.0% 全国 17.9%

・(アの実験を選択し、) 振動数がどう変わったかが分ければよい。

〈誤答例 2〉 広島県 21.6% 全国 19.9%

・(イの実験を選択し、) 振動数が中間の値になることが分ければよい。

〈誤答例 3〉 広島県 21.2% 全国 20.9%

・(ウの実験を選択し、) 振動数が少なくなっていることが分ければよい。

【指導改善のポイント】

⇒ 誤答例には、「実験 1、2 より」など選択した実験と実験 1、2 の振動数とを比較したり、「多い」「少ない」など選択した実験と実験 1、2 の振動数の大小を関係付けたりする表現がない。

指導に当たっては、実験を行う前に予想される実験の結果を確認する場面を設定することが考えられる。その際、まず個人で考えた後、グループでの話し合い活動を通して、比較する対象を明確にするなど、生徒の考えがより妥当なものになっているかという視点から授業改善を図ることが求められる。

令和7年度全国学力・学習状況調査
問題別調査結果 【国語】
広島県一見堂（公立）

小学校調査
その1

・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数	広島県（公立）	全国（公立）	対象児童数	広島県（公立）	全国（公立）
	440	18,265		22,120	936,137

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
				広島県（公立）	全国（公立）
		全体	14	69	66.8
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に關する事項	2	79.4	76.9
		(2) 情報の扱い方に關する事項	1	63.8	63.1
		(3) 我が國の言語文化に關する事項	1	82.1	81.2
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	68.9	66.3
		B 書くこと	3	71.7	69.5
		C 読むこと	4	59.6	57.5
	知識・技能		4	76.2	74.5
評価の観点	思考・判断・表現		10	66.0	63.8
	主体的に学習に取り組む態度		0		
	選択式		9	66.4	64.7
問題形式	短答式		3	80.5	78.5
	記述式		2	63.2	58.8

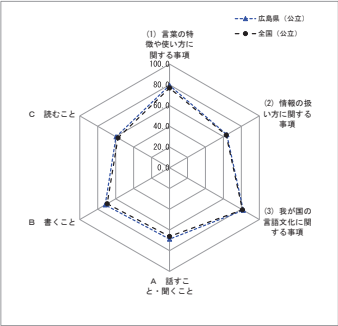
問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容					評価の観点			問題形式				
			知識及び技能			思考力、判断力、表現力等									
			(1) 言葉の特徴や使い方に 関する事項	(2) 情報の扱い方に 関する事項	(3) 我が国の言語文化に 関する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	
問題番号	問題の概要	出題の趣旨													
1一	【話し合いの様子】における小森さんの傍線部の発言を説明したものとして適切なものを選択する	目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる				5・6 ア			○		○				
1二	【話し合いの記録】の書き表し方を説明したものとして適切なものを選択する	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる	5・6 イ						○		○				
1三 (1)	【インタビューの様子の一部】で小森さんが傍線部Aのように発言した目的として適切なものを選択する	自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうかをみる				5・6 エ			○		○				
1三 (2)	【インタビューの様子の一部】で小森さんが傍線部Bのように発言した理由として適切なものを選択する	話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる				5・6 エ			○		○				
2一	【ちらし】の文章の構成の工夫を説明したものとして適切なものを選択する	書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができるかどうかをみる				3・4 イ			○		○				
2二	山田さんが手ぬぐいの模様について言葉と図で説明した理由として適切なものを選択する	図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる				5・6 エ			○		○				
2三	【ちらし】の二重傍線部を、【調べたこと】を基に詳しく書く	目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる				5・6 ウ			○				○		
2四ア	【ちらし】の下線部Aを、漢字を使って書き直す（ <u>二〇</u> ）		5・6 エ						○				○		
2四イ	【ちらし】の下線部イを、漢字を使って書き直す（ <u>あじい</u> ）	学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができるかどうかをみる	5・6 エ						○				○		
3一	【資料1】を読んで思い出した【木村さんの経験】を通して、木村さんが気付いたこととして適切なものを選択する	時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができるかどうかをみる			5・6 ウ				○		○				
3二 (1)	【木村さんのメモ】の空欄Aに入る適切な言葉を【資料2】の中から書き抜く	時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができるかどうかをみる				1・2 ア			○				○		
3二 (2)	【資料3】を読み、【木村さんのメモ】の空欄イに当てはまる内容として適切なものを選択する	事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかをみる				5・6 ア			○		○				
3三 (1)	【話し合いの様子】の田中さんの発言の空欄Aに当てはまる内容として適切なものを選択する	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる				5・6 ウ			○		○				
3三 (2)	【資料1】を読み選んで言葉の変化について自分が納得したことを、【資料2】、【資料3】、【資料4】に書かれていることを理由としてまとめて書く	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる				5・6 ウ			○				○		

令和7年度全国学力・学習状況調査
問題別調査結果 【国語】
広島県一見堂（公立）

小学校調査
その2

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞



問題 番号	全国	広島県	広島市	福山市	西部教育事務所													東部教育事務所					北部教育事務所		
					呉市	竹原市	大竹市	東広島市	廿日市市	江田島市	府中町	海田町	熊野町	坂町	大崎上島町	臺北支所			三原市	尾道市	府中市	世羅町	神石高原町	三次市	庄原市
																安芸高田市	安芸太田町	北広島町							
教科 全体	66.8	69	69	67	70	74	70	70	71	69	72	71	72	75	74	65	70	65	70	68	67	69	71	70	69
1一	53.3	56.3	56.1	54.4	59.1	68.9	56.8	56.9	57.7	62.3	59.2	52.9	54.5	61.1	65.2	51.7	58.3	47.2	61.9	56.3	48.2	61.4	58.1	52.9	60.6
1二	63.1	63.8	63.5	63.6	64.3	63.9	64.3	63.2	64.5	64.9	67.1	68.2	66.5	73.7	69.6	60.1	61.1	63.9	62.4	65.8	63.7	65.3	79.1	59.3	58.9
1三(1)	71.8	75.0	73.4	72.9	78.0	83.6	76.8	77.8	78.3	76.3	80.1	79.8	82.7	75.8	78.3	73.0	75.0	79.6	79.7	75.9	71.0	69.3	76.7	76.0	79.3
1三(2)	73.7	75.6	76.7	73.9	73.6	78.7	77.8	74.4	79.0	71.1	78.3	74.0	74.9	77.9	73.9	68.5	80.6	75.9	75.0	73.9	77.1	70.3	74.4	73.3	72.6
2一	65.5	67.2	66.7	66.7	68.9	72.1	67.0	66.1	64.6	70.2	71.2	67.4	73.8	81.1	60.9	65.7	83.3	71.3	70.2	68.0	64.9	73.3	76.7	72.7	61.8
2二	81.8	83.3	84.2	81.2	82.8	82.0	81.1	82.5	86.0	86.8	86.6	83.1	85.9	86.3	78.3	78.1	80.6	77.8	83.2	82.7	82.9	83.2	79.1	82.2	81.3
2三	61.3	64.5	63.9	61.2	65.2	69.7	68.1	66.6	65.7	69.3	68.4	70.7	71.7	75.8	56.5	68.5	69.4	56.5	64.4	65.7	62.4	67.3	69.8	68.5	70.5
2四ア	81.6	84.6	84.7	81.3	88.3	87.7	88.1	86.2	87.1	78.9	86.6	88.8	84.3	89.5	100.0	71.3	83.3	75.0	88.5	85.4	83.3	78.2	76.7	86.4	79.3
2四イ	72.1	74.2	73.4	71.9	78.0	87.7	80.5	74.4	76.5	76.3	72.8	80.2	85.3	76.8	91.3	73.0	72.2	55.6	80.6	70.5	78.8	78.2	83.7	81.9	71.8
3一	81.2	82.1	82.9	80.0	83.1	77.0	83.2	81.8	84.8	81.6	82.6	81.0	83.8	84.2	91.3	71.3	83.3	78.7	81.1	80.9	82.9	82.2	76.7	84.1	86.3
3二(1)	81.6	82.6	82.6	80.6	82.8	88.5	87.6	85.1	83.5	85.1	85.2	82.2	87.4	87.4	78.3	74.7	80.6	80.6	83.7	81.5	78.8	80.2	81.4	84.7	80.1
3二(2)	51.3	52.6	55.0	49.5	51.2	43.4	52.4	54.5	51.1	41.2	54.0	49.2	44.5	58.9	56.5	52.8	33.3	50.9	49.5	48.8	44.1	49.5	46.5	52.1	53.1
3三(1)	40.8	41.3	42.7	37.3	40.2	54.1	37.8	43.2	44.8	36.0	45.8	44.6	39.3	43.2	47.8	32.0	44.4	34.3	38.1	41.2	37.6	28.7	46.5	40.7	39.8
3三(2)	56.3	61.9	59.3	59.5	65.5	73.0	58.9	67.0	65.1	64.9	66.9	70.2	74.9	74.7	87.0	68.0	75.0	63.9	66.8	60.6	62.0	76.2	69.8	65.5	65.6

以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果		対象学校数		対象児童数	
		広島県（公立）	全国（公立）	広島県（公立）	全国（公立）
		440	18,265	22,133	936,399

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
			広島県（公立）	全国（公立）
学習指導要領の領域	全体	16	59	58.0
	A 数と計算	8	63.0	62.3
	B 図形	4	57.1	56.2
	C 測定	2	55.3	54.8
	C 変化と関係	3	57.5	57.5
評価の観点	D データの活用	5	63.5	62.6
	知識・技能	9	66.5	65.5
	思考・判断・表現	7	48.7	48.3
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	6	67.4	67.2
	短答式	6	65.1	64.0
	記述式	4	36.2	34.9

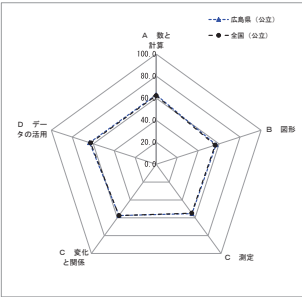
（注）「学習指導要領の領域」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の問題数を合計した数は「全体」の問題数とは一致しない。

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式		
			A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式
1 (1)	2022年の全国のプロコリーの出荷量が2020年の全国のプロコリーの出荷量の約何倍かを、棒グラフから読み取って選ぶ	棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができるかどうかをみる	3(4) ア(ア)				3(1) ア(イ)	○			○		
1 (2)	都道府県Aのプロコリーの出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、その理由を書き	目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる					3(1) ア(イ) 5(1) ア(ア) イ(ア)						○
1 (3)	示された表から、「春だいにん」や「秋冬だいにん」より「夏だいにん」の出荷量が多い都道府県を選ぶ	簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことができるかどうかをみる					3(3) ア(ア)	○			○		
1 (4)	示された資料から、必要な情報を選び、ピーマン1個とブロッコリー4個の重さを求める式と答えを書く	示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算することができるかどうかをみる	4(6) ア(ア) イ(ア)					○				○	
2 (1)	示された平行四辺形をかくために、コンパスの開く長さを書き、コンパスの針を刺す場所を選ぶ	平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することができるかどうかをみる	4(1) ア(イ)					○				○	
2 (2)	方眼上の五つの図形の中から、台形を選ぶ	台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる	4(1) ア(イ)					○			○		
2 (3)	角をつくる二つの辺をそれぞれをばした図形の角の大きさについてわかることを選ぶ	角の大きさについて理解しているかどうかをみる	4(5) ア(ア)					○			○		
2 (4)	五角形の面積を求めるために五角形を二つの図形に分割し、それぞれの図形の面積の求め方を書く	基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	5(3) ア(ア) ※					○					○
3 (1)	0、4÷0、0.5について、整数の加法で考えときの共通する単位を書く	小数の加法について、数の相対的な大きさをを用いて、共通する単位を捉えることができるかどうかをみる	4(4) ア(イ) ア(ウ)					○				○	
3 (2)	3/4+2/3について、共通する単位分数と3/4と2/3が、共通する単位分数の幾つになるかを書く	分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つかを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	5(5) ア(ア) イ(ア)					○					○
3 (3)	数直線上に示された数を分数で書く	数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかどうかをみる	3(6) ア(ア) イ(イ)					○				○	
3 (4)	1/2+1/3を計算する	異分母の分数の加法の計算をすることができるかどうかをみる	5(5) ア(ア)					○				○	
4 (1)	新品のハンドソープが空になるまでに何プッシュすることができるかを調べるために、必要な事柄を選ぶ	伴って変わる二つの数量の関係をに着目し、必要な数量を見だすことができるかどうかをみる	3(4) ア(ア)				4(1) イ(ア)	5(2) ア(ア)	○		○		
4 (2)	使いかけのハンドソープがあと何プッシュすることができるかを調べるために、必要な事柄を判断し、求め方を書く	伴って変わる二つの数量の関係をに着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	3(4) ア(ア)		3(1) ア(ア)	4(1) イ(ア)	5(2) ア(ア)		○				○
4 (3)	はかりが示された場面で、はかりの目盛りを読む	はかりの目盛りを読むことができるかどうかをみる			3(1) ア(イ)			○				○	
4 (4)	10%増量したつめかえ用のハンドソープの内容量が、増量前の何倍かを調べる	「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる					5(3) イ(ア)	○					

※本設問においては、思考力、判断力、表現力等をみるために用いる知識及び技能を示している。

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



問題番号	全国	広島県	広島市	福山市	呉市	竹原市	大竹市	東広島市	廿日市市	江田島市	府中町	海田町	熊野町	坂町	大崎上島町	基北支所			東部教育事務所					北部教育事務所	
																安芸高田市	安芸太田町	北広島町	三原市	尾道市	府中市	世羅町	神石高原町	三次市	庄原市
教科全体	58.0	59	59	57	59	59	61	60	59	59	63	61	60	67	68	50	62	55	60	57	59	56	57	57	58
1（1）	78.7	78.1	80.0	73.5	80.1	71.3	75.7	78.2	78.2	73.3	82.7	81.9	75.4	88.4	87.0	69.1	86.1	68.5	78.2	77.5	75.1	79.2	65.9	73.5	77.2
1（2）	31.0	33.3	30.9	31.2	39.9	42.6	39.5	38.1	36.0	31.0	38.2	35.4	37.2	43.2	43.5	25.3	36.1	29.6	38.4	35.5	34.7	34.7	45.5	30.7	35.7
1（3）	71.6	73.2	73.9	68.0	73.6	73.8	72.4	76.4	73.7	75.0	81.5	81.9	77.0	86.3	73.9	67.4	77.8	77.8	72.7	71.8	70.6	72.3	77.3	72.9	77.6
1（4）	74.5	74.2	75.5	71.6	74.9	76.2	74.6	72.6	75.0	73.3	79.3	76.5	75.9	77.9	73.9	65.2	77.8	67.6	73.5	73.5	72.7	70.3	63.6	69.8	69.7
2（1）	58.3	60.7	60.3	55.1	63.9	59.8	70.8	65.6	64.9	58.6	65.4	64.2	65.4	73.7	73.9	61.2	63.9	53.7	58.7	61.0	63.3	55.4	61.4	65.4	61.4
2（2）	50.2	49.5	48.3	51.4	52.6	57.4	51.9	50.4	49.7	50.0	46.9	53.5	42.4	50.5	47.8	39.3	47.2	55.6	54.2	46.5	54.7	48.5	45.5	52.2	42.7
2（3）	79.3	80.9	81.4	79.5	80.4	76.2	75.7	82.8	77.4	83.6	82.5	85.2	78.0	84.2	87.0	81.5	80.6	80.6	83.9	79.6	83.3	79.2	77.3	81.6	80.5
2（4）	37.0	37.4	38.1	34.1	38.6	41.0	35.7	38.0	37.7	41.4	40.7	40.3	37.7	42.1	56.5	25.8	44.4	33.3	39.7	36.2	37.6	34.7	47.7	34.9	39.8
3（1）	74.1	74.6	75.2	74.6	70.7	73.0	74.6	73.6	74.9	81.9	80.1	76.5	80.6	86.3	91.3	60.7	77.8	74.1	78.4	71.1	71.8	68.3	68.2	73.2	76.3
3（2）	23.0	23.9	23.9	22.6	24.9	25.4	29.2	26.8	22.3	20.7	28.1	26.3	25.1	31.6	39.1	17.4	22.2	13.9	24.5	22.9	20.4	18.8	29.5	22.1	23.2
3（3）	35.0	36.1	36.4	37.1	31.7	28.7	36.2	41.2	28.2	38.8	41.3	34.6	32.5	49.5	39.1	17.4	38.9	26.9	41.5	33.5	40.0	27.7	31.8	41.6	26.6
3（4）	81.3	84.5	83.3	85.0	86.4	86.9	85.9	84.7	84.5	84.5	88.4	89.3	89.5	91.6	91.3	81.5	91.7	90.7	87.6	83.0	85.3	92.1	84.1	81.0	90.9
4（1）	82.8	82.7	84.6	80.9	80.6	86.9	80.5	82.4	82.7	74.1	86.6	83.5	82.2	83.2	82.6	71.3	88.9	79.6	78.4	80.2	78.0	86.1	84.1	80.4	79.7
4（2）	48.7	50.1	50.4	46.4	51.0	52.5	51.9	50.9	52.6	52.6	58.3	55.6	53.9	65.3	73.9	41.0	52.8	44.4	51.9	49.0	51.8	49.5	50.0	45.0	46.9
4（3）	60.9	60.6	60.7	59.1	63.9	62.3	69.2	59.7	65.3	63.8	65.9	57.2	63.4	64.2	78.3	51.7	66.7	53.7	64.2	54.9	56.7	50.5	59.1	52.5	61.4
4（4）	40.9	39.7	39.9	40.9	38.2	37.7	44.3	39.9	37.1	36.2	47.2	39.1	36.1	58.9	43.5	28.1	38.9	31.5	41.9	38.5	40.8	27.7	27.3	34.6	32.4

以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数		広島県（公立）	全国（公立）	対象児童数		広島県（公立）	全国（公立）
		439	18,150			22,134	936,576
分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)			広島県（公立）	全国（公立）
全体		17	59			59	57.1
学習指導 要領の区 分・領域	A区分	「エネルギー」を柱とする領域	4	47.3		46.7	
	B区分	「粒子」を柱とする領域	6	52.7		51.4	
		「生命」を柱とする領域	4	55.1		52.0	
		「地球」を柱とする領域	6	68.8		66.7	
		知識・技能	8	56.3		55.3	
評価の観点	思考・判断・表現		9	61.7		58.7	
	主体的に学習に取り組む態度		0				
問題形式	選択式		11	55.8		54.7	
	短答式		4	72.2		69.7	
	記述式		2	51.5		45.2	

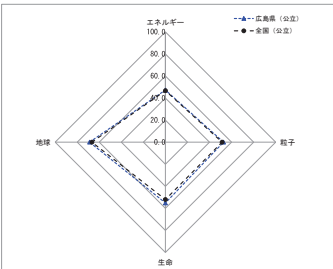
（注）「学習指導要領の区分・領域」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の問題数を合計した数は「全体」の問題数とは一致しない。

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の区分・領域				評価の観点			問題形式		
			A区分		B区分		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式
			「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域	「地球」を柱とする領域						
1（1）	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み時間の違いを調べる実験の条件について、コップAの土の量と水の量から、コップBの土の量を推定し、結果を用いて書く	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤の条件について、コップAの土の量と水の量から、コップBの土の量を推定し、結果を用いて書く				4 B (3)ア (イ)※		○		○		
1（2）	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いをまとめたわけについて、結果を用いて書く	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を用いて書く				4 B (3)ア (イ)※		○			○	
1（3）	【結果】や【問題に対するまとめ】から、中くらの粒の赤玉土が水にしみ込む時間を予想し、予想した理由とともに書く	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想し、表現することができるかどうかをみる				4 B (3)ア (イ)※		○		○		
2（1）	アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すが、磁石に引き付けられるか、それぞれの特徴に当てはまるものを選ぶ	身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかをみる	3 A (5)ア (イ)※	3 A (4)ア (イ)※			○			○		
2（2）	電気を通す物と通さない物でできた人形について、人形Aの胸を人形Bに当てたときだけ、ベルが鳴る回路を選ぶ	電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる	3 A (5)ア (イ)※				○			○		
2（3）	ベルをたたく練習の電磁石について、電流がつく磁力を強めるため、コイルの電線の巻き方を考える	電流がつく磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることを知識が身に付いているかどうかをみる	5 A (3)ア (イ)※				○				○	
2（4）	乾電池2個のつなぎ方について、直列につなぎ、電磁石を強くできるものを選ぶ	乾電池のつなぎ方について、直列につなぎに関する知識が身に付いているかどうかをみる	4 A (3)ア (イ)※				○					
3（1）	ヘチマの花のおしべとめしべについて書いて、受精について書く	ヘチマの花のつくりや受精についての知識が身に付いているかどうかをみる			5 B (1)ア (エ)※		○				○	
3（2）	ヘチマの花粉を顕微鏡で観察するとき、適切な像にするための顕微鏡の操作を選ぶ	顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いているかどうかをみる			5 B (1)ア (イ)※		○			○		
3（3）	ヘチマの種子が発芽する条件を調べる実験において、条件を制御した解決の方法を選ぶ	発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる			5 B (1)ア (イ)※		○					
3（4）	レタスの種子の発芽の結果から、てみるさんの気付きを基に、見つけた問題について書く	レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができるかどうかをみる			5 B (1)イ		○				○	
4（1）	水の温まり方について、問題に対するまとめを写すために、調べる必要があることについて書く	水の温まり方について、問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することができるかどうかをみる	4 A (2)ア (イ)※				○			○		
4（2）イウ	水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ	水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる	4 A (2)ア (イ)※	4 B (4)ア (イ)※		○				○		
4（2）エオ	水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ	水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる	4 A (2)ア (イ)※	4 B (4)ア (イ)※		○						
4（3）カ	海にある水がとけることについて、水が氷に変わる温度を根拠に予想しているものを選ぶ	水が氷に変わる温度を根拠に、オホーツク海の水の温度が減少した理由を予想し、表現することができるかどうかをみる	4 A (2)ア (イ)※				○			○		
4（3）キ	水が陸から海へ流れていくことについて、水の行方と関連付けられているものを選ぶ	水が流れてきた水が海に流れていくことの根拠について、理科で学習したことと関連付けて、知識を概念的に理解しているかどうかをみる			4 B (3)ア (イ)※		○					
4（3）ク	海面水位の上昇について、水の温度による体積の変化を根拠に予想しているものを選ぶ	水は温まると体積が増える」を根拠に、海面水位の上昇した理由を予想し、表現することができるかどうかをみる	4 A (2)ア (イ)※				○			○		

※本設問においては、思考力、判断力、表現力等を求めるために用いる知識及び技能を示している。

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞



問題番号	全国	広島県	広島市	福山市	西部教育事務所														東部教育事務所					北部教育事務所	
					呉市	竹原市	大竹市	東広島市	廿日市市	江田島市	府中町	海田町	熊野町	坂町	大崎上島町	芸北支所			三原市	尾道市	府中市	世羅町	神石高原町	三次市	庄原市
																安芸高田市	安芸太田町	北広島町							
教科全体	57.1	59	59	57	60	61	60	61	60	61	64	66	62	68	72	55	64	61	60	59	59	59	59	59	63
1（1）	79.5	82.1	83.6	79.4	80.4	86.9	81.6	81.9	83.2	85.2	85.2	84.8	82.7	86.3	87.0	66.3	86.1	76.9	79.3	77.9	83.2	87.1	86.4	82.8	82.5
1（2）	60.5	66.1	63.6	64.2	69.6	81.1	60.0	69.6	65.3	70.4	69.1	74.9	68.6	77.9	73.9	73.0	77.8	68.5	72.1	70.7	68.9	79.2	70.5	68.1	76.3
1（3）	77.8	79.6	81.2	76.2	79.6	83.6	80.0	78.5	82.8	89.6	81.5	80.7	77.0	78.9	82.6	69.7	86.1	75.9	78.5	77.6	75.8	77.2	77.3	77.2	82.5
2（1）	10.6	10.2	10.1	9.0	11.7	9.0	11.4	12.2	9.3	10.4	13.2	19.3	11.0	14.7	8.7	5.6	5.6	11.1	9.2	8.0	12.3	2.0	6.8	11.1	7.1
2（2）	42.9	44.4	44.3	43.3	42.7	33.6	46.5	47.1	45.1	47.0	49.0	46.9	43.5	52.6	56.5	42.7	52.8	41.7	45.2	44.8	42.2	39.6	47.7	36.9	46.7
2（3）	78.0	77.7	80.0	73.7	72.5	69.7	81.1	77.7	76.8	68.7	87.4	84.8	80.1	73.7	82.6	70.2	77.8	80.6	73.8	77.8	76.2	72.3	86.4	74.4	81.3
2（4）	55.1	56.8	53.4	51.1	65.3	75.4	68.1	63.7	57.7	62.6	61.4	67.9	68.6	74.7	87.0	41.0	77.8	60.2	64.0	61.1	61.5	61.4	63.6	68.1	70.8
3（1）	70.7	74.6	69.8	75.1	80.1	89.3	82.2	74.8	76.2	86.1	80.9	90.5	86.9	87.4	95.7	78.7	86.1	81.5	82.2	81.1	83.6	85.1	77.3	80.3	81.7
3（2）	45.6	45.7	43.5	44.4	49.6	45.1	46.5	47.1	48.7	50.4	53.7	54.3	48.7	62.1	69.6	54.5	61.1	44.4	50.6	47.1	44.3	41.6	45.5	41.1	52.5
3（3）	62.0	63.3	63.4	58.3	60.8	64.8	63.8	67.5	66.6	67.0	73.8	77.8	73.8	77.9	82.6	50.6	75.0	61.1	61.1	63.6	66.0	62.4	56.8	63.6	61.7
3（4）	29.9	36.9	38.0	30.7	39.9	42.6	29.7	38.7	32.1	35.7	38.8	52.3	44.0	50.5	52.2	39.9	36.1	45.4	41.5	36.9	32.0	35.6	29.5	36.7	40.0
4（1）	50.6	54.5	55.5	51.1	54.8	51.6	56.8	53.6	54.0	59.1	55.9	58.4	57.1	60.0	65.2	50.6	55.6	62.0	53.8	55.4	51.2	46.5	59.1	55.8	60.0
4（2）イウ	64.2	64.0	63.6	63.3	63.9	67.2	65.4	64.2	66.7	58.3	71.1	60.1	67.5	75.8	78.3	65.2	63.9	66.7	63.7	60.9	66.4	62.4	75.0	61.4	71.3
4（2）エオ	57.5	59.0	59.1	56.8	58.1	56.6	61.1	60.9	60.3	60.0	64.6	64.2	59.2	67.4	87.0	53.9	63.9	58.3	62.8	57.4	57.4	57.4	52.3	57.2	59.6
4（3）カ	59.8	61.1	61.5	59.6	61.8	54.1	62.7	61.4	62.7	63.5	65.9	61.7	59.2	75.8	65.2	52.2	61.1	73.1	57.2	60.5	62.7	61.4	47.7	57.5	60.0
4（3）キ	60.9	62.3	63.1	59.6	61.9	62.3	64.3	63.9	65.2	60.0	63.8	63.8	62.3	67.4	73.9	52.8	61.1	64.8	61.7	61.5	61.1	58.4	56.8	57.8	62.1
4（3）ク	65.6	67.4	67.8	66.8	65.7	64.8	66.5	67.9	69.2	68.7	72.6	72.0	64.9	71.6	73.9	62.9	55.6	65.7	66.9	66.3	65.2	67.3	63.6	65.3	66.7

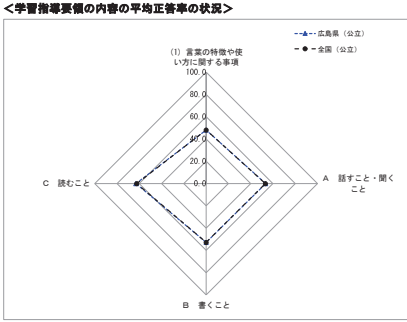
・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を集計した値である。

対象学校数		広島県（公立）	全国（公立）	対象生徒数		広島県（公立）	全国（公立）
		234	9,244			20,128	870,560

分類		区分	対象問題数 （問）	平均正答率（％）	
				広島県（公立）	全国（公立）
		全体	14	55	54.3
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	① 言葉の特徴や使い方に關する事項	2	48.0	48.1
		② 情報の扱い方に關する事項	0		
		③ 我が國の言語文化に關する事項	0		
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	4	53.5	53.2
		B 書くこと	5	52.9	52.8
		C 読むこと	3	63.0	62.3
評価の観点	知識・技能		2	48.0	48.1
	思考・判断・表現		12	55.6	55.3
	主体的に学習に取り組む態度		0		
問題形式	選択式		8	63.8	63.9
	短答式		2	72.3	73.6
	記述式		4	27.1	25.3

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容			評価の観点			問題形式		
			知識及び技能			思考力・判断力・表現力等			選択式	短答式	記述式
			(1)言葉の特徴や使い方に關する事項	(2)情報の扱い方に關する事項	(3)我が國の言語文化に關する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと			
1一	変換した漢字として適切なものを選択する（かいしん）	文脈に即して漢字を正しく使うことができるかどうかをみる	2 フ						○		
1二	ちらしに「金場園」を加えた目的を説明したものとして適切なものを選択する	目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができかどうかをみる				1 ア				○	
1三	ちらしの中の情報について、示す位置を変えた意図を説明したものとして適切なものを選択する	書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考えることができるかどうかをみる				1 イ			○		
1四	ちらしの読み手に向けて、今年の美術展の工夫について伝える文章を書く	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる				1 ウ			○		
2一	スライドを使っどるように話しているのかを説明したものとして適切なものを選択する	資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる				2 ウ			○		
2二	聞き手の反応を見て発した言葉について、そのように発言した理由を説明したものとして適切なものを選択する	相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる				1 ウ			○		
2三	「話の順序を入れ替えた方がよい」という助言の意図を説明したものとして適切なものを選択する	自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を工夫することができるかどうかをみる				2 イ			○		
2四	発表のまとめの内容をより分かりやすく伝えるためのスライドの工夫について、どのような助言をするか、自分の考えを書く	資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる				2 ウ				○	
3一	物語の始めに開けかけが示されていることについて、その効果を説明したものとして適切なものを選択する	表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる				1 エ			○		
3二	「兄」と「弟」が、物語の中でどのような性格の人物として描かれているかを書く	文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方捉えることができるかどうかをみる				2 ア			○		
3三	「しきりと」の意味として適切なものを選択する	事象や行為を表す語彙について理解しているかどうかをみる				1 ウ			○		
3四	「一 榎木の葉」に書かれている場面が、「二 釣の話」には書かれていないことによる効果について、自分の考えとそのように考えた理由を書く	文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる				1 エ			○		
4一	手紙の下書きを見直し、誤って書かれている漢字を見付けて修正する	読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる				1 エ			○		
4二	手紙の下書きを見直し、修正した方がよい部分を見付けて修正し、修正した方がよいと考えた理由を書く	読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる				1 エ			○		



問題番号	全国	広島県	広島市	福山市	西部教育事務所															東部教育事務所					北部教育事務所		県立中学校
					呉市	竹原市	大竹市	東広島市	廿日市市	江田島市	府中町	海田町	熊野町	坂町	大崎上島町	臺北支所			三原市	尾道市	府中市	世羅町	神石高原町	三次市	庄原市		
																安芸高田市	安芸太田町	北広島町									
教科全体	54.3	55	54	52	55	55	56	58	56	54	56	55	53	61	60	52	56	56	53	54	52	55	57	54	56	76	
1一	35.2	33.9	34.8	31.9	35.2	35.2	36.2	35.6	28.7	32.6	40.0	31.1	27.0	35.5	25.9	24.6	28.1	31.8	31.3	31.0	31.3	36.1	43.8	28.5	28.7	62.5	
1二	82.5	82.8	81.6	82.4	84.0	80.3	81.9	84.1	87.3	82.0	88.4	84.0	85.4	81.3	81.5	81.0	87.5	80.9	78.0	83.4	81.1	90.7	85.4	85.3	80.7	93.6	
1三	63.3	63.2	62.9	60.3	63.2	63.9	72.3	65.2	65.4	65.2	64.6	65.6	64.0	72.0	74.1	55.3	62.5	70.9	57.3	63.1	62.7	63.0	56.3	63.1	62.4	91.4	
1四	31.0	33.5	32.0	31.9	34.7	36.9	35.0	37.2	35.1	41.6	35.4	34.0	36.5	45.8	55.6	32.4	43.8	27.3	32.9	34.7	30.9	32.4	27.1	32.7	34.3	58.1	
2一	38.1	37.4	37.7	35.5	34.7	36.9	37.9	41.3	37.6	34.8	34.3	41.5	34.8	46.7	37.0	34.6	25.0	39.1	38.1	37.7	33.7	32.4	29.2	34.9	40.9	53.9	
2二	77.9	78.0	79.3	73.1	80.1	75.4	81.9	78.8	81.6	78.7	75.1	77.8	74.7	81.3	85.2	75.4	75.0	76.4	76.7	73.3	73.9	80.6	81.3	77.9	81.8	92.1	
2三	73.4	73.3	72.9	71.1	73.2	77.9	72.9	74.9	76.0	77.5	75.4	77.4	75.3	81.3	77.8	74.9	84.4	73.6	70.6	72.0	69.1	64.8	77.1	72.8	80.7	95.1	
2四	23.2	25.2	23.2	24.9	26.1	34.4	20.3	32.0	27.0	21.3	27.3	27.8	21.9	48.6	40.7	25.7	40.6	24.5	21.5	22.1	19.7	25.0	22.9	27.6	34.8	47.2	
3一	80.0	79.8	80.4	77.1	80.5	70.5	82.5	80.1	79.0	75.3	83.5	76.4	78.1	85.0	77.8	78.8	75.0	85.5	78.8	80.0	77.1	78.7	87.5	82.1	74.0	95.1	
3二	89.9	90.6	90.5	89.2	90.8	87.7	90.4	92.0	93.9	94.4	88.6	93.4	91.0	95.3	96.3	89.4	87.5	93.6	88.3	88.9	85.5	94.4	95.8	92.9	88.4	98.9	
3三	61.0	62.0	60.7	58.9	63.5	60.7	70.1	69.0	65.2	56.2	61.9	62.3	59.6	57.0	74.1	60.3	53.1	66.4	65.4	59.9	63.9	64.8	68.8	60.6	69.6	83.5	
3四	17.1	18.6	18.2	16.0	18.3	21.3	14.1	20.0	19.7	18.0	22.2	21.2	14.6	24.3	18.5	17.3	37.5	16.4	15.0	20.8	12.4	16.7	31.3	19.2	22.1	52.4	
4一	57.3	54.0	51.7	52.6	55.7	59.8	57.6	64.7	59.5	50.6	56.2	51.9	46.1	62.6	77.8	46.4	50.0	50.9	49.8	50.5	47.0	48.1	60.4	58.0	59.7	80.9	
4二	30.1	30.9	30.8	26.4	29.5	35.2	36.2	35.1	27.9	25.8	31.1	29.7	27.5	32.7	14.8	30.7	40.6	43.6	31.3	35.6	34.1	36.1	33.3	27.2	30.9	63.7	

・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

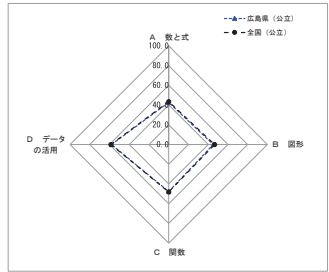
対象学校数	広島県（公立）	全国（公立）	対象生徒数	広島県（公立）	全国（公立）
	234	9,243		20,134	871,097

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
			広島県（公立）	全国（公立）
全体		15	47	48.3
学習指導要領の領域	A 数と式	5	42.6	43.5
	B 図形	4	45.2	46.5
	C 関数	3	47.7	48.2
	D データの活用	3	58.0	58.6
評価の観点	知識・技能	9	53.3	54.4
	思考・判断・表現	6	38.5	39.1
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	3	54.3	54.0
	短答式	7	50.2	52.0
	記述式	5	39.3	39.6

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式		
			A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式
1	1から9までの数の中から素数を選んで選ぶ	素数の意味を理解しているかどうかをみる	1(1) ア(ア)				○			○		
2	果汁40%の飲み物a mLに含まれる果汁の量を、aを用いた式で表す	数量を文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる	1(2) ア(エ)				○				○	
3	△ABCにおいて、∠Aの大きさが50°のときの頂点Aにおける外角の大きさを求める	多角形の外角の意味を理解しているかどうかをみる	2(1) ア(イ)				○				○	
4	一次関数 $y = 6x + 5$ について、xの増加量が2のときのyの増加量を求める	一次関数 $y = ax + b$ について、変化の割合を基に、xの増加量に対するyの増加量を求めることができるかどうかをみる		2(1) ア(ア)			○					
5	ある学級の生徒40人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表から、2.0 m以上2.5 m未満の階級の相対度数を求める	相対度数の意味を理解しているかどうかをみる				1(1) ア(ア)	○				○	
6(1)	連続する二つの3の倍数の和が9の倍数になることは限らないことの説明を完成するために、予想が成り立たない例をあげ、その和を求める	事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する場面において、反例をあげることができるかどうかをみる	2(1) ア(ウ) イ(イ)				○				○	
6(2)	$3n$ と $3n+3$ の和を $2(3n+1)+1$ と表した式から、連続する二つの3の倍数の和がどんな数であるかを説明する	式の意味を読み取り、成り立つ事柄を思いだし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	2(1) イ(イ)				○					○
6(3)	連続する三つの3の倍数の和が、9の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる	2(1) イ(イ)				○					○
7(1)	Aの手元のカードが3枚とも「グー」、Bの手元のカードが3枚とも「チョキ」でじゃんけんカードゲームの1回目を行うとき、1回目にAが勝つ確率を書く	必ず起こる事柄の確率について理解しているかどうかをみる			2(2) ア(ア)		○				○	
7(2)	Aの手元のカードが「グー」、「チョキ」、「パー」、「パー」の4枚、Bの手元のカードが「グー」、「チョキ」の2枚のとき、AとBの勝ちなやささについての正しい記述を選び、その理由を確率を用いて説明する	不確実な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる			2(2) イ(イ)		○					○
8(1)	A駅からの走行距離と速さの関係を表すグラフの何を読み取り、C駅とD駅の間の走行距離が分かるかを説明する	事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることができかどうかをみる	1(1) ア(ウ)				○			○		
8(2)	A駅から6.0、0 km地点につくられる新しい駅の運営がおよそ例円になるかを求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる		1(1) イ(イ)			○				○	
9(1)	四角形AECFが平行四辺形であることの証明を振り返り、新たに分かることを選ぶ	証明を振り返り、証明された事柄を基にして、新たに分かる辺や角についての関係を見いだすことができるかどうかをみる	2(2) ア(ア)				○				○	
9(2)	平行四辺形ABCDの辺BC、ADを延長した直線上にBE=DFとなる点E、Fを取っても、四角形AECFは平行四辺形となることの証明を完成する	仮定・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することができるかどうかをみる	2(2) イ(ア)				○				○	
9(3)	平行四辺形ABCDの辺BC、DAを延長した直線上にBE=DFとなる点E、Fを取り、辺ABと線分FCの交点をG、辺DCと線分AEの交点をHとしたとき、四角形AGCHが平行四辺形になることを証明する	ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる	2(2) イ(イ)				○					○

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞



問題番号	全国	広島県	広島市	福山市	西部教育事務所														東部教育事務所					北部教育事務所		県立中学校
					呉市	竹原市	大竹市	東広島市	廿日市市	江田島市	府中町	海田町	熊野町	坂町	大崎上島町	安芸高田市	安芸太田町	北広島町	三原市	尾道市	府中市	世羅町	神石高原町	三次市	庄原市	
教科全体	48.3	47	47	45	48	52	48	50	46	43	49	55	47	57	58	42	52	48	44	49	42	38	45	43	44	84
1	31.8	33.7	35.0	30.3	35.6	41.8	42.9	24.6	29.0	17.8	41.2	55.7	36.3	51.4	22.2	30.9	40.6	64.5	33.2	32.3	18.1	19.4	18.8	26.3	43.6	69.7
2	51.9	49.8	50.9	45.0	50.8	45.1	49.7	51.3	51.0	43.3	57.1	58.5	43.6	57.0	66.7	37.1	62.5	44.5	48.0	49.7	42.6	32.4	41.7	37.2	43.1	93.6
3	58.1	55.3	56.5	53.3	54.3	59.8	53.7	53.7	51.2	58.9	55.3	64.6	59.8	71.0	66.7	52.2	56.3	59.1	56.9	56.3	43.8	39.8	47.9	42.9	45.9	81.3
4	34.7	32.0	29.0	29.4	40.2	32.0	35.6	38.8	30.7	42.2	34.2	40.1	28.5	55.1	37.0	30.3	31.3	27.3	31.5	37.3	25.7	18.5	33.3	24.0	29.8	74.5
5	42.5	40.8	39.1	39.5	40.7	43.4	46.9	49.1	33.1	27.8	46.1	61.3	36.3	41.1	25.9	29.8	50.0	43.6	37.3	51.3	36.5	25.9	22.9	36.2	31.5	79.8
6(1)	62.8	62.1	63.5	59.0	60.2	67.2	57.6	62.0	63.9	54.4	65.5	61.8	64.2	62.6	74.1	55.1	65.6	55.5	58.9	58.4	59.4	56.5	62.5	58.7	63.5	88.0
6(2)	25.7	23.8	23.8	22.2	21.4	24.6	22.6	26.8	21.0	15.6	23.2	26.4	29.1	42.1	29.6	16.9	31.3	13.6	20.9	25.0	20.5	13.0	18.8	15.4	19.9	72.3
6(3)	45.2	43.6	41.2	41.0	48.1	57.4	36.2	50.8	41.3	43.3	41.5	58.5	52.0	56.1	77.8	32.0	43.8	54.5	37.1	50.0	35.3	24.1	45.8	40.7	41.4	88.8
7(1)	77.4	76.7	77.6	74.1	77.5	74.6	80.2	76.7	78.0	73.3	76.5	78.3	73.2	72.9	85.2	73.6	75.0	77.3	72.6	75.9	77.1	66.7	79.2	75.6	74.0	93.3
7(2)	55.9	56.4	56.0	54.5	56.0	66.4	57.1	58.1	58.0	50.0	58.0	66.5	55.9	59.8	77.8	55.6	50.0	55.5	47.3	56.8	50.2	53.7	50.0	58.0	54.1	88.8
8(1)	71.9	71.9	71.3	70.2	71.9	77.9	71.8	75.2	71.7	65.6	70.6	75.9	73.2	80.4	77.8	74.2	78.1	70.0	66.1	73.3	68.7	75.0	77.1	74.4	71.8	95.9
8(2)	38.0	39.2	36.8	39.0	38.3	49.2	39.0	44.5	40.0	47.8	39.1	50.9	34.6	57.0	63.0	38.8	59.4	38.2	36.2	38.2	32.9	41.7	52.1	39.1	34.8	86.1
9(1)	58.5	57.4	58.1	53.8	56.8	55.7	62.7	59.7	59.4	51.1	54.4	58.5	56.4	60.7	74.1	53.4	59.4	43.6	57.6	56.3	57.4	47.2	52.1	56.1	50.3	88.0
9(2)	36.3	34.4	34.4	32.7	34.6	42.6	23.2	37.5	31.2	27.8	37.2	35.8	33.0	42.1	37.0	27.5	50.0	31.8	29.5	33.9	28.5	24.1	39.6	27.9	29.8	84.6
9(3)	33.2	33.5	32.6	31.1	34.8	42.6	33.9	38.0	32.3	31.1	35.0	39.2	30.2	45.8	55.6	29.2	28.1	33.6	30.4	33.5	29.7	28.7	31.3	30.1	28.2	76.8

・以下の集計値は、4月14日から4月17日に実施した調査の結果を集計した値である。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式			問題の難易度	出題年 (2020)	出題科目 (2020)	
			「エホカ」を柱とする領域	種子を柱とする領域	生命を柱とする領域	地球を柱とする領域	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	図表式	記述式					
1 (1)	電線線路を利用して水を温めるための電気回路について、図表と並列として回路全体の抵抗が大きい装置や速く水が温まる装置を選択する	電線線路で水を温める学習場面において、回路の電圧・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる	(3) (7) (9)												5	19.892	
1 (2)	「理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのか？」という疑問を解決するための課題を記述する	身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定できるかどうかをみる		(2) (7) (9)					○				○		5	19.892	
1 (3)	地層1から地層4までの性質から、水が染み出る場所を判断し、その場所を選択する	露頭のどの位置から水が染み出するかを観察する場面において、小学校で学習した知識を基に、地層に関する知識及び技能を関連付けて、地層を構成する岩石の大きさとすき間の大きさとに着目して分析して解釈できるかどうかをみる				(2) (7) (9)		○	○						5	19.892	
1 (4)	生物1から生物4までの動画を見て、呼吸を行う生物をすべて選択する	水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる			(3) (9) (9)										5	19.892	
1 (5)	塩素の元素記号を記述する	塩素の元素記号を問うことで、元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる	(4) (7) (9)				○			○					4	19.892	
1 (6)	水道水と精製水に関する2人の発表を見て、探究の過程におけるあなただけの振り返りを記述する	科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できるかどうかをみる		(2) (7) (9)				○					○		3	19.892	
2 (1)	【考察】をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する	【考察】をより確かなものにするために、審に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できるかどうかをみる	(1) (7) (9)										○		5	5.398	
2 (2)	「融解ベージの情報だけを借用して考察してよいか」について判断し、その理由として適切なものをすべて選択する	ストーリーの太さと審の高低に関する情報を収集してまとめを行う学習活動の場面では、収集する資料や情報の信頼性についての知識及び技能が身に付いているかどうかをみる	(1) (7) (9)				○								2	5.398	
3 (1)	設定した【仮説】が正しい場合の実験結果の予想を選択する	仮説を立てて科学的に探究する学習場面において、電気回路に関する知識及び技能を活用して、仮説が正しい場合の結果を予想することができるかどうかをみる	(3) (7) (9)												4	4.206	
3 (2)	抵抗に関する知識を手掛かりに、身近な電気回路に抵抗がついていない理由を選択する	身近な電化製品の電気回路について探究する学習場面において、回路に抵抗がついている理由を問うことで、抵抗に関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる	(3) (7) (9)				○								2	4.206	
4 (1)	プロパンガスと都市ガスでシャボン玉を作ったときの様子から、プロパンガス、都市ガス、空気の大気圧の大小を判断し、小さい順に並べる	ガス警報器の設置場所が異なる理由を考える学習場面において、実験の様子と、密度に関する知識および技能を関連付けて、そのほかの気体の密度の大小関係を分析して解釈できるかどうかをみる	(2) (7) (9)				○	○							4	4.560	
4 (2)	「一酸化炭素は空気より軽い」という性質を基に、適切な避難行動を選択する	火災における適切な避難行動を問うことで、気体の性質に関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる	(2) (7) (9)												2	4.560	
5 (1)	加熱を伴う実験において、火傷をしたときの適切な応急処置を選択する	加熱を伴う実験における実験器具の操作等に関する技能が身に付いているかどうかをみる	(2) (7) (9)				○								1	5.728	
5 (2)	実験の動画と実験結果の図から、どのような化学変化が起きているかを判断し、原子や分子のモデルを移動させることで、その化学変化をモデルで表す	化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すことができるかどうかをみる	(4) (4) (9)										○		4	5.728	
6 (1)	牧野富太郎の「ノジギク」のスケッチから分かるスケッチの技能について、適切なものを選択する	スケッチから分かることを問うことで、スケッチに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる	(1) (7) (9)				○								4	4.206	
6 (2)	牧野富太郎の「サクユリ」のスケッチから、サクユリの【茎の横断面】、【根】として適切なものを選択し、選択する	スケッチから分かる植物の特徴を基に、植物の茎、葉、根のつくりに関する知識及び技能を活用して、植物の茎の横断面や根の構造について適切に表現できるかどうかをみる	(3) (4) (9)												4	4.206	
7 (1)	小猫の皮毛、肺、肺動脈、根毛に共通する構造と同じ構造をもつものとして適切な現象を判断し、選択する	小猫の皮毛、肺の肺動脈、根毛に共通する構造について学習する場面において、共通性と多様性の見方を働かせながら比較し、多面的、総合的に分析して解釈することができるかどうかをみる	(3) (9) (9)												4	4.560	
7 (2)	消化によってデンプンがブドウ糖に分解されることと、同じ化学変化であるものを選択する	分解に関する身近な事象を問うことで、これまでに学習した理科の知識及び技能を基に、化学変化の分解の知識が概念として身に付いているかどうかをみる	(4) (7) (9)	(3) (9) (9)			○								5	4.560	
8 (1)	大地の変化に関する言い伝えを1つ選択し、その選択した言い伝えが科学的に正しいと判断するための理由を「地層を調べたときに何が分かるのか」に着目して記述する	地域の言い伝えを科学的に探究する学習場面において、大地の変化と、地層の様子やその構成物に関する知識及び技能を関連付けて、地層の重なり方や広がり方を推定できるかどうかをみる	(2) (4) (9)										○		4	5.728	
8 (2)	Aさんの考えを肯定するためにはボーリング地点③の結果がどのようになればよいかを判断し、青色の地層を移動させ、ボーリング地点③の結果をモデルで示す	大地の変化について、時間的・空間的な見方を働かせて、土地の様子とボーリング調査の結果を関連付けて、地層の広がりを検討して表現できるかどうかをみる	(2) (4) (9)										○		5	5.728	
9 (1)	【予想】から学習した内容が反映されたAさんの【振り返り】を読み、Aさんの【予想】を判断し、選択する	気圧について科学的に探究する場面において、状態変化や圧力に関する知識及び技能を基に、予想が反映された振り返りについて問うことで、探究の過程の見直しについて分析して解釈できるかどうかをみる	(4) (7) (9)					○		○					5	5.398	
9 (2)	クリンシュームのほかに気圧を利用している身近な事象を選択する	気圧に関する身近な事象を問うことで、気圧の知識が概念として身に付いているかどうかをみる			(4) (7) (9)		○								4	5.398	

[illegible]

		IRTスコア	IRTバンド分布グラフ					IRTバンド割合					
			■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5					1	2	3	4	5	
			0%	20%	40%	60%	80%	100%					
全国		503						4.2%	27.3%	42.0%	20.3%	6.2%	
広島県		495						4.3%	28.9%	42.6%	19.3%	4.8%	
広島市		485～494						4.5%	29.1%	43.2%	18.8%	4.4%	
福山市		475～484						5.7%	33.5%	41.0%	15.8%	4.1%	
西部 教育 事務 所	呉市	485～494						4.0%	28.0%	44.7%	18.8%	4.5%	
	竹原市	525～534						1.7%	20.2%	47.9%	22.7%	7.6%	
	大竹市	485～494						2.8%	35.4%	37.6%	19.9%	4.4%	
	東広島市	515～524						2.8%	25.9%	41.4%	22.3%	7.7%	
	廿日市市	505～514						3.0%	22.9%	46.6%	22.6%	4.8%	
	江田島市	495～504						2.2%	27.5%	47.3%	20.9%	2.2%	
	府中町	495～504						4.2%	26.9%	42.5%	22.4%	4.0%	
	海田町	515～524						1.4%	22.6%	43.8%	24.9%	7.4%	
	熊野町	505～514						1.7%	27.4%	38.3%	28.0%	4.6%	
	坂町	515～524						1.9%	25.2%	40.2%	27.1%	5.6%	
	大崎上島町	585～594						0.0%	14.3%	35.7%	25.0%	25.0%	
	芸 北 支 所	安芸高田市	485～494						3.4%	32.8%	43.5%	12.4%	7.9%
		安芸太田町	555～564						0.0%	29.0%	29.0%	29.0%	12.9%
		北広島町	495～504						2.8%	28.4%	48.6%	18.3%	1.8%
東部 教育 事務 所	三原市	475～484						6.4%	33.3%	41.1%	16.0%	3.1%	
	尾道市	485～494						5.2%	31.3%	38.3%	21.6%	3.6%	
	府中市	475～484						6.1%	32.4%	44.5%	13.8%	3.2%	
	世羅町	505～514						1.0%	26.0%	48.1%	20.2%	4.8%	
	神石高原町	545～554						2.1%	12.8%	46.8%	29.8%	8.5%	
北部 教育 事務 所	三次市	485～494						3.3%	29.6%	48.9%	14.7%	3.6%	
	庄原市	505～514						2.8%	28.2%	42.0%	19.9%	7.2%	

※ IRTスコアは、国が都道府県別結果を公表する際の表記に準じた形で表記しています。市町がIRTスコアを公表する際、市町の判断により1の位まで公表することができますので、その場合は、県の公表値と異なります。
※ IRTスコア、IRTバンドについては、「IRTに基づく結果提供に関するリーフレット動画等」を参考にしてください。
文部科学省HP: https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/zenkoku/mext_03311.html